

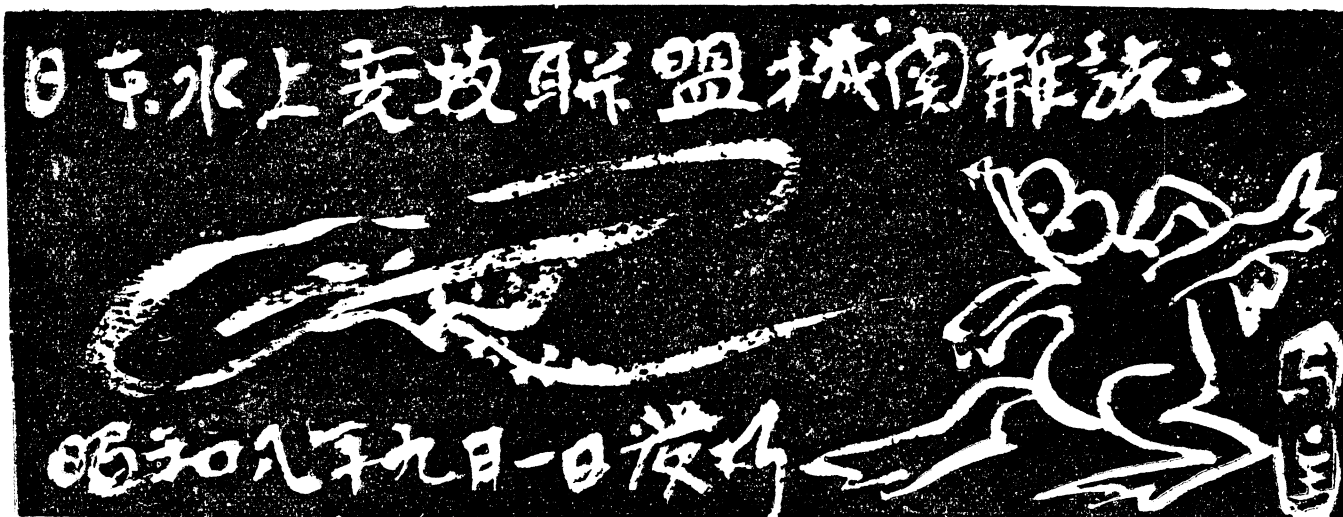
1933

木鉢

第二十號

日本造幣權會辦

日本銀行總行



タイムは？

假想の敵アルネ・ボルグと
ひたむきに戦ひ抜いた彼、
八月十二日の夜、1500米決
勝の北村久壽雄君。

(Photo Asahigraph)

第二十號 目 次

選手権大會特輯

昭和八年度選手権大會に際して……………NSR 會長 末弘 巖太郎…(3)

大 會 概 評

顧みて選手権の意義を思ふ……………NSR 名譽主事 松 澤 一 鶴…(4)

大 會 の 感 想……………杉 本 傳…(4)

大會記録及び各評

昭和八年度 日本選手権大會競泳成績……………宍 道 洋 一…(5)

水 球 概 觀……………廣 瀬 秀 俊…(11)

日本選手権大會の飛込競技……………山 内 辰 雄…(15)

杉本傳、鶴田義行、高石勝男の三氏に對する表彰文……………(19)

大 會 グ ラ フ……………(20)

昭和八年度 日本選手権大會地方豫選成績……………編 輯 部…(21)

全日本中等學校水上競技大會記録

東部中等學校水上競技大會……………編 輯 部…(7)

西部中等學校水上競技大會……………編 輯 部…(28)

東西優勝校爭覇戰……………編 輯 部…(29)

東西中等學校對抗戰……………編 輯 部…(30)

神宮競技と日本水上競技聯盟……………NSR 顧問 田 畑 政 治…(31)

世 界 情 報……………(35)

日本水上競技聯盟會報……………(36)

注 意 代議員會議事録が會報欄にありますから各加盟團體の方は御注意下さい。



昭和八年選手権大會に際して

日本水上競技聯盟會長 末 弘 巖 太 郎

茲に創立十週年を迎へた日本水上競技聯盟は今や「正しく」そして「強い」游泳の技術と精神とを廣く全国的に普及徹底することを目標として新しい運動の第一歩を踏み出しました。吾々は「水泳日本」をして僅に一人のアルネ・ホルグをもち一人のタリスをもつが如きものたらしめたくない。すべての日本人をして游がしめ、すべての日本人をして正しく強く游がしめ、そして日本全體の水泳水準を世界の上に高く高くもり上らせたい。此吾々の念願が達成された時こそ、此高い水準の上に更に高くぬきんでた吾々の選手が自ら容易く世界の何者をも足下に蹂躪し得る時である。すべての日本人が、すべての水泳日本がガツチリ肩を組んで人梯を築き上げねばならぬ。そして最後の第一人者を高く高く世界の水準線上に擔ぎ上げねばならぬ。其時こそは眞に「水泳日本」が世界征覇の大目的を達成する時である。

過去四年の間「オリンピック」第一主義を標榜して邁進した吾が聯盟は今や其主義の新しい展開として、茲に全國普及主義の旗幟をかゝげて新しい戦闘に入つた。今諸君の眼の前に展開される花々しい競技會は實に此吾々の新しい戦闘に於ける挺進隊の奮闘である。

顧みて選手権の意義を思ふ

NSR名譽主事 松澤 一 鶴

日本選手権保持者とは文字はやゝこしいが、現在の水上競技者に於ては、その年度のその種目の日本一の謂である——と改めて説明する迄も無い事であるが、その日本一を決定する選手権大會が我水泳界に於ては必ずしも日本一の内容を持つた會では無かつたと云ふ事はをかした話ではあるが、悲しい事實であつた。聯盟理事者達の氣持と選手諸君の闘志とがピッタリと此の會で出會つて、そのなし得た仕事が眞の日本一に價する時、此を模範的な理想的な眞の日本選手権大會と心に極めて、幾年かその實現に惱んで來た事だつたらう。

しかし遂に今年はそのが具體化されたのでは無いかと思ふ。日本水上競技聯盟が選手権大會を催す様になつてから十年目に實現されたのだ。今年の會の券圍氣の裡にこそ、日本一と勝名乗を挙げしめて甲斐ある會では無かつたか。それをしも或者は説を作すであらう、いや極東大會豫選だからだと。けれども選手諸君の始めの動機は或は極東大會にあつたかも知れぬが、大會の近くにつれて焦點は遂に選手権争覇に強く合はされて白熱した氣運を醸し出した事

を見逃す事は出来まい。

記録に依りて人の力を測かる時はなるほど數字的に正確に比較も出来るが、此には靜的な理智的な段階があるだけだ。スポーツに於ける力の争ひには動的な人と人との衝突に時には理外な魂の閃きをも加へて勝敗を決する所に命がある。此の命こそ即選手権を生かすものである、此の故にあくまで闘ひて勝つた選手権獲得者を禮讃する。その上今年の日本のチャンピオンもその他の諸君も來年の榮冠に對して精進の一途を辿る様に希望する。

今年の大會を顧みて多く教へられるが、わけても眞の理想的な選手権大會が實現されたのを喜ぶと同時に、かゝる第一義的の會は獎勵のみで得られるものでも無く、理智と組織で作られるものでもなく、技術の進歩のみで解決出来るものでもなく、實に選手権、即日本一を核として皆の氣運と精魂の相倚ると云ふ要素が大切である事を改めて覺らされたのである。此の上は選手も役員も心をこめて、世界に重きをなす日本の選手権を守らう。

大 會 の 感 想

杉 本 傳

男子競泳千五百米自由形に於ける聖ボールの本田君、女子競泳百米自由形及二百米自由形に於ける椋山女學園の鹽見さん、男子飛板飛込に於ける日大三中の柴原君等は今大會の輝かしい世界記録、日本記録の影に咲いた然かも最も大きな望みを將來に掛け得る人だらう。

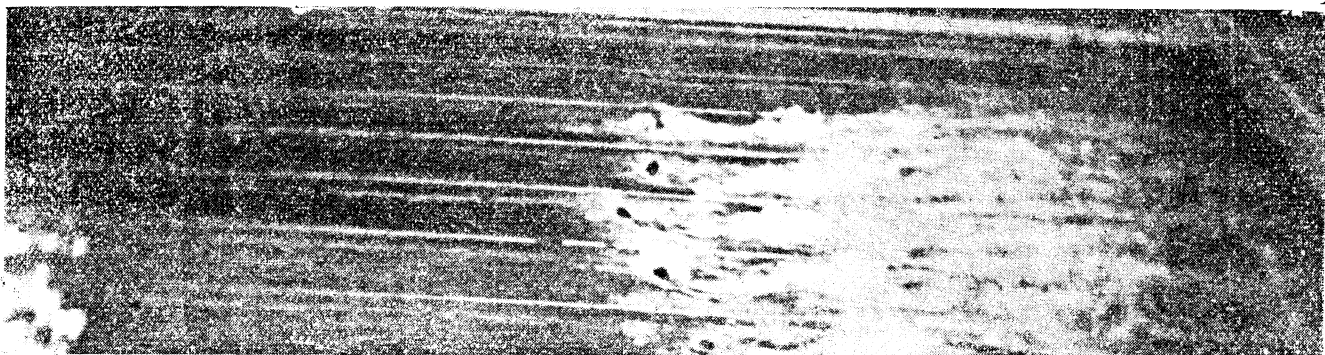
遅れて居る女子水泳界に於ける椋山校當局者の努力に感謝を捧げたい。

柴原君が東京に來た事は飛込に親み得る機會を多くさせた事になり同君の熱心と相俟つて益々進歩の道程を辿つて居るのは結構な事だ、然しながら本年

も相變らず飛込出場地方が關東と大阪とは情けない。

水球競技に於ける一般技術の進歩は關西に居る私に取つては實に素晴らしい物だと思はれた。だが此れも東京だけの進歩で地方には未だ及んで居らない飛込も水球も中學生から全國的に競技せしめるやうに導く事が今の處一番大切な事だらう。

男子競泳だけの普及發展に驚いてばかり居ないで此方面にも計畫だけでなく實行に移つて貰つてはどうかだらう。



昭和八年 日本選手権大会競泳成績

穴 道 洋 一

男子 100 米自由形

豫 選

- A 1. 宮崎 康二 (濱名灣) 59.8
 2. 梅田利兵衛 (東高師) 1:01.2
 3. 鶴岡 榮 (聖ポール) 1:04.0
 4. 富樫 誠助 (法 政) 1:04.8
- B 1. 高橋 成夫 (稻泳會) 1:00.8
 2. 豊田 久吉 (日 大) 1:01.6
 3. 竹村 公良 (稻泳會) 1:02.6
 4. 金杉 恭夫 (聖ポール) 1:10.2
- C 1. 遊佐 正憲 (日 大) 58.0 (日本對)
 2. 志村 義久 (稻泳會) 1:01.4
 3. 水野 寛 (北 陸) 1:05.6
 4. 山川金之助 (三水會) 1:07.4
- D 1. 片山 兼吉 (明 大) 1:00.6
 2. 坂上安太郎 (稻泳會) 1:01.0
 3. 岡部 泰華 (福島中) 1:03.8
 4. 中村 強輔 (日 大) 1:04.2 (最優四等)

準決勝

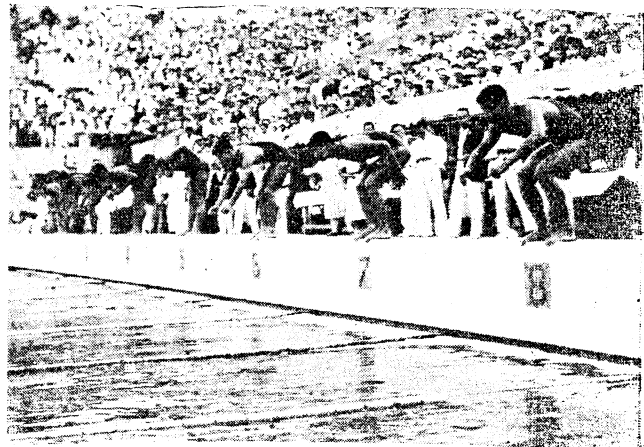
- A 1. 遊佐 正憲 (日 大) 58.0 (日本對)
 2. 坂上安太郎 (稻泳會) 1:00.6
 3. 梅田利兵衛 (東高師) 1:00.8 (参考)
- B 1. 宮崎 康二 (濱名灣) 1:00.0
 2. 片山 兼吉 (明 大) 1:00.6
 3. 志村 義久 (稻泳會) 1:01.4

A組ではオリンピック選手高橋君がタッチの差で梅田君に敗れたのは意外だった。

決 勝

準決勝を通つた六人と選手権保持者新井(静浦)のレース、スタートするや早くも宮崎、遊佐飛び出し50米の折返しでは遊佐僅に早く宮崎續く。70米で遊佐斷然頭角を表したが、宮崎何時もの冴えを見せず、反つて隣コースの坂上と接戦。遊佐は嶄然たる強味を見せ約3米の差で快勝す、坂上、宮崎はタッチの差。遊佐は準決勝で58秒決勝で58秒2 オリンピックの宮崎と同じだつたのも何かの因縁かも知れない。宮崎は病後で見兼ねる程元氣がなかつたし昨年の優勝者、新井が最後にゴールしたのも何となく淋しかった。

1. 遊佐 正憲 (日 大) 58.2
 2. 宮崎 康二 (濱名灣) 1:00.0
 3. 坂上安太郎 (稻泳會) 1:00.0



男子 100 米自由形、決勝スタート

男子200米自由形

豫選

- A 1. 横山 隆志 (稲泳會) 2:16.0
 2. 杉本 盛 (日大) 2:16.8
 3. 志村 義久 (稲泳會) 2:18.8
 4. 宮崎 康二 (濱名灣) 2:23.2

宮崎は160迄、三者と接戦して居たが此の頃から急にスピードが鈍り、8米も遅れてゴールイン。遂に最優四等にも入れず落選してしまつたのは、氣の毒であつた。

- B 1. 坂上安太郎 (稲泳會) 2:19.8
 2. 大横田 勉 (明大) 2:20.8
 3. 豊田 久吉 (日大) 2:22.4
 4. 新井 茂夫 (静浦) 2:27.4
- C 1. 遊佐 正憲 (稲泳會) 2:13.6 (日本新)
 2. 片岡寅次郎 (稲泳會) 2:18.4
 3. 根上 博 (聖ポール) 2:21.6
 4. 梅田利兵衛 (東高師) 2:22.8 (最優四等)

準決勝

- A. 1. 遊佐 正憲 (日大) 2:13.4 (日本新)
 (長水路世界新)
 2. 杉本 盛 (日大) 2:15.4
 3. 坂上安太郎 (稲泳會) 2:17.4

遊佐は100米を1:03.2で泳ぎ1ストローク後れて杉本續く、遊佐益々好調3米の差で勝ち長水路世界新記録を作る。杉本の好記録は遊佐の新記録以上に嬉しかつた。坂上のタイムは100米を1分フラットで泳ぎ得ることを考へれば少し物足りない。

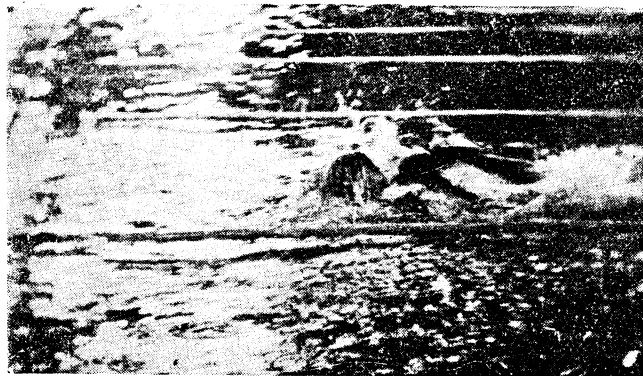
- B 1. 横山 隆志 (稲泳會) 2:15.8
 2. 志村 義久 (稲泳會) 2:17.6
 3. 片岡寅次郎 (稲泳會) 2:18.8

3コースを泳いだ大横田昨年の元氣更になく、豊田も棄権する等オリンピック選手頗る振はなかつた。

決勝

コースは2.遊佐、3.杉本、4.坂上、5.片岡、6.横山、7.新聞、日大對早大のレースの様なものだつた、スタートは坂上稍悪く他は一齋、50米は遊佐、杉本、横山の順、100米は1:02.0で先づ遊佐が折返し1米後れて杉本、横山同列、更に0.5米後れて新聞志村續く。その後遊佐益々差を大きくし結局、5米近くリードして一着、杉本は150米迄横山に勝ちながらゴール前10米で抜かれて三着となつた。遊佐の確實な泳法、横山の老巧なレース、三着にはなつたといへ元氣な杉本、恐らく自由形では一番緊張したレースであつたらう。

1. 遊佐 正憲 (日大) 2:13.0 (日本新)
 (長水路世界新)
 2. 横山 隆志 (稲泳會) 2:16.2
 3. 杉本 盛 (日大) 2:16.4



男子200米自由形決勝、ゴール直前の遊佐君

男子400米自由形

豫選

- A 1. 横山 隆志 (稲泳會) 4:59.2
 2. 田中 一男 (稲泳會) 5:10.0
 3. 大横田 勉 (明大) 5:12.6
 4. 武村 寅雄 (明大) 5:17.2

300米は横山の3:39.0

- B 1. 牧野 正藏 (稲泳會) 4:47.6 (日本新)
 (長水路世界新)
 2. 杉本 盛 (日大) 5:00.6
 3. 片岡寅次郎 (稲泳會) 5:00.8
 4. 根上 博 (聖ポール) 5:06.4 (最優四等)

300米牧野、3:32.2 (日本新、長水路世界新)

牧野最初より頑張り、100米を1:05.6、200米を2:17.8で泳ぎ300米では3:32.2の快記録を出して益々好調、遂に長水路の世界記録を作つた。

- C 1. 北村久壽雄 (高知商) 4:49.6 (日本新)
 2. 石原田 愿 (明大) 4:59.2
 3. 本田惣一郎 (聖ポール) 5:00.6
 4. 永見 達明 (稲泳會) 5:08.6

北村も牧野同様最初からリードして日本新記録を作る。300米のタイム3:36.0これも新記録である。

準決勝

- A 1. 北村久壽雄 (高知商) 4:57.6
 2. 横山 隆志 (稲泳會) 4:59.8
 3. 片岡寅次郎 (稲泳會) 5:00.6

300米は横山の3:41.6片岡に5米遅れて根上ゴール。

- B 1. 牧野 正藏 (稲泳會) 4:53.2
 2. 杉本 盛 (日大) 4:58.6
 3. 石原田 愿 (明大) 5:00.6

300米は杉本の3:41.6。本田は石原田に2米、大横田は更に3米遅れて落選した。

決勝

コースは、2.横山、3.新聞、4.北村、5.片岡、6.牧野、7.石原田、8.杉本、スタートするや横山飛出し50米では横山、杉本、新聞、牧野の順、100米では牧野進出して横山に次で第二位、200米依然横山トップ、1米遅れて牧野、杉本、北村續く、200米過ぎて牧野猛然として横山を抜き、北村も250米でスパートし杉本を抜いて横山に迫る。300米の鐘の時は牧野既に6米餘り横山をリード、北村も又横山に一艇身の後に迫つた。此の時の牧野タイム3:33.0 豫選よりも悪いが日本新記録である、350米で北村も遂に横山を抜き、結局、牧野優勝、8米遅れて北村、4米遅れ横山、新聞、杉本、石原田、片岡の順でバタバタと着いた。

1. 牧野 正藏 (稻泳會) 4:46.4 (世界新)
2. 北村久壽雄 (高知商) 4:52.0
3. 横山 隆志 (稻泳會) 4:55.2

牧野のタイムは25米水路に換算すれば4:38.4となる。眞に驚異的のものだ。

男子1500米リレーに優勝の

牧野 正藏君 (早大)



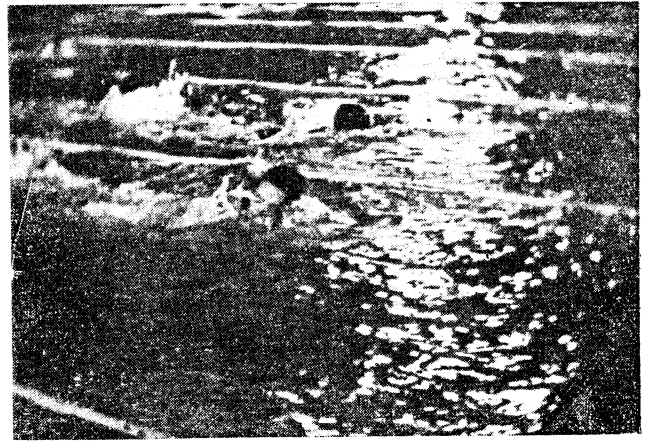
男子1500米自由形

豫選

- A
1. 本田惣一郎(聖ポール) 19:53.4
 2. 石原田 愿(明大) 20:28.6
 3. 永見 達明(稻泳會) 20:38.0
 4. 田中 一男(稻泳會) 20:54.6

新人本田始めからリードして一着、1000米のタイム 13:14.8

- B
1. 牧野 正藏(稻泳會) 19:20.4
 2. 横山 清一(高知商) 20:21.0
 3. 武村 寅雄(明大) 21:13.4
 4. 田中 滋二(銚子商) 21:40.6



1500米決勝途中の北村君(下) 牧野君(上)

牧野、横山を80米餘りも離して一着、1000米のタイム 12:51.6 (世界新)

決勝

コース、1.石原田、2.田中(一)、3.横山、4.田中(滋)、5.永見、6.武村、7.本田、8.牧野、9.北村、大會第一の呼物である本レースは牧野、北村と相隣んで益々興味をそそつた。スタートするや、北村は我々の豫想を裏切つて始めから牧野をリード、500米で1米、800米で5米、1300米で8米、最後には21米となり悠々と優勝した。牧野は終始北村にリードされて苦し気に泳ぎ、最後の100米に20秒餘りも費してしまつた。北村は1400米迄ボルグのタイムを凌驚して居たにも拘らず、ラストスパート効かず0.8秒の差で世界新記録を逸してしまつた。併し我々は、北村が與へた失望の代償として新人本田を挙げやう。昨年迄安房中の無名選手だつた本田が本年立教に入學してから異常の進歩を見せ、泳ぐ毎に記録を縮める快選手となつた。北村、牧野の餘りにも有名な選手の前に光らなかつたが、1500米19分39秒6と言へば、今年のオリンピックでも3等に入れる優秀なものである。今後の活躍は期して待つべきものがあらう。石原田、武村は不振だつた大横田と共に明大軍の奮起を希望する。

1. 北村久壽雄 (愛知商) 19:08.0 (日本新)
2. 牧野 正藏 (稻泳會) 19:22.8
3. 本田惣一郎(聖ポール) 19:39.6

男子100米背泳

豫選

- A
1. 入江 稔夫 (稻泳會) 1:13.4
 2. 秋吉十九夫 (日大) 1:15.2
 3. 柿内久壽馬 (弦泳會) 1:16.0
 4. 井上贊二郎 (三水會) 1:17.2
- B
1. 角野 二郎 (弦泳會) 1:15.2

2. 山田 薫 (大垣商) 1:15.4
3. 秋吉 龍二 (日大三中) 1:16.4
4. 勝久 重隆 (稻泳會) 1:16.4 (最優四等)

- C
1. 河津憲太郎 (明 大) 1:13.4
 2. 根來 幸成 (三水會) 1:16.4
 3. 清政 武夫 (稻泳會) 1:16.6
 4. 細谷 定一 (中央大) 1:18.4

準決勝

- A
1. 河津憲太郎 (明 大) 1:12.0
 2. 秋吉十九夫 (日 大) 1:15.4
 3. 勝久 重隆 (稻泳會) 1:16.3(参考)

- B
1. 入江 稔夫 (稻泳會) 1:14.2
 2. 柿内久壽馬 (弦泳會) 1:16.0
 3. 秋吉 龍二 (日大三中) 1:16.0(参考)

決勝

コース、2. 秋吉(龍)、3.河津、4. 清川、5. 入江、6. 勝久、7. 秋吉(十)、8. 柿内、オリムピクトリオ 3. 4. 5. と並ぶ、平凡なレースであつた。清川、河津は70米邊りて互に接した爲記録にも影響したものと思はれる。此のトリオに挑戦する新人が早く出たいものである。

1. 清川 正二 (東商大) 1:11.0
2. 河津憲太郎 (明 大) 1:12.2
3. 入江 稔夫 (稻泳會) 1:13.0

男子米200背泳

豫選

- A
1. 河津憲太郎 (明 大) 2:40.6
 2. 清政 武夫 (稻泳會) 2:46.2
 3. 柿内久壽馬 (弦泳會) 2:48.8
 4. 古川 正 (聖ポール) 2:59.2
- B
1. 勝久 重隆 (稻泳會) 2:45.4
 2. 根來 幸成 (三水會) 2:47.4
 3. 角野 二郎 (弦泳會) 2:48.6
 4. 井上質二郎 (三水會) 2:49.2(最優四等)
- C
1. 入江 稔夫 (稻泳會) 2:40.4
 2. 山田 薫 (大垣商) 2:46.0
 3. 秋吉 龍二 (日大三中) 2:48.2
 4. 渡邊 卓一 (三水會) 2:51.0

準決勝

- A
1. 河津憲太郎 (明 大) 2:40.2
 2. 清政 武夫 (稻泳會) 2:44.4
 3. 勝久 重隆 (稻泳會) 2:44.8

- B
1. 入江 稔夫 (稻泳會) 2:40.8
 2. 山田 薫 (大垣商) 2:44.6
 3. 柿内久壽馬 (弦泳會) 2:45.4

決勝

不元氣だとの噂を裏切つて清川は100米で河津を半米離し、ゴールでは4米の差で一着、河津二着、2米遅れて入江、大垣の山田少年は入江について4等に入つたのは注目値する。清川のタイムは日本新記録であるが惜しい所で長水路世界新記録とはならなかつた。

1. 清川 正二 (東商大) 2:35.8 (日新)
2. 河津憲太郎 (明 大) 2:38.8
3. 入江 稔夫 (稻泳會) 2:39.4

男子100米平泳

豫選

- A
1. 前田 倍三 (稻泳會) 1:20.6
 2. 山田 弘 (稻泳會) 1:21.4
 3. 伊藤 三郎 (明 大) 1:23.4
 4. 柳澤榮三郎 (法 政) 1:24.2
- B
1. 大崎卯藤久 (弦泳會) 1:19.4
 2. 筒井八男治 (函館中) 1:21.0
 3. 前田 龍馬 (天王寺商) 1:22.4
 4. 伊藤 軍吉 (明 大) 1:22.8 (最優四等)
- C
1. 奥藤 修 (明 大) 1:19.8
 2. 中川 重雄 (振甫水俱) 1:21.0
 3. 古莊 次平 (稻泳會) 1:24.0
 4. 寺田 忠雄 (明 大) 1:25.6
- D
1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 1:19.2
 2. 高島 秋介 (甲陽中) 1:20.8
 3. 岡田 達男 (日 大) 1:21.2
 4. 安孫子三郎 (札幌中) 1:25.0

準決勝

- A
1. 大崎卯藤久 (弦泳會) 1:18.8
 2. 奥藤 修 (明 大) 1:19.0
 3. 高島 秋介 (甲陽中) 1:20.6
- B
1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 1:19.6
 2. 筒井八男治 (函館中) 1:19.6
 3. 前田 倍三 (稻泳會) 1:20.4

オリムピック選手中川は4着で失格。

決勝



100米平泳決勝 小池禮三君(80米邊)

コース 2. 小池、3. 奥藤、4. 前田、5. 大崎、6. 葉室、7. 高畠、8. 筒井、小池の獨壇場で日本新記録を作つた、1分14秒8なら長水路世界記録である、小池奥藤の差5.米1ストロークで大崎三着、他は殆ど一線をなしてゴールに崩雪れこんだ。

1. 小池 禮三 (靜 浦) 1:14.8 (日本新)
(長水路世界新)
2. 奥藤 修 (明 大) 1:18.2
3. 大崎卯藤久 (弦泳會) 1:18.8

男子 200 米平泳

豫 選

- | | |
|---|-------------------------------|
| A | 1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 2:54.8 |
| | 2. 栗本 巖 一宮中) 3:05.0 |
| | 3. 川島 諒介 (神商工) 3:08.4 |
| | 4. 武田 五郎 (N. P. S.) 3:09.2 |
| B | 1. 高畠 秋介 (甲陽中) 2:54.8 |
| | 2. 中川 重雄 (振甫水俱) 2:56.0 |
| | 3. 山田 弘 (稻泳會) 2:57.8 |
| | 4. 前田 龍馬 (天王寺商) 2:59.0 (最優四等) |
| C | 1. 奥藤 修 (明 大) 2:56.0 |
| | 2. 古莊 次平 (稻泳會) 3:01.0 |
| | 3. 柳澤榮三郎 (法 政) 3:01.8 |
| | 4. 安孫子三郎 (札幌一中) 3:05.0 |
| D | 1. 大崎卯藤久 (弦泳會) 2:54.6 |
| | 2. 前田 倍三 (稻泳會) 2:56.0 |
| | 3. 筒井八男治 (函館中) 2:58.2 |
| | 4. 山口 正保 (明治商業) 3:10.4 |

準決勝

- | | |
|---|------------------------|
| A | 1. 大崎卯藤久 (弦泳會) 2:50.4 |
| | 2. 奥藤 修 (明 大) 2:52.4 |
| | 3. 高畠 秋介 (甲陽中) 2:53.8 |
| B | 1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 2:53.4 |
| | 2. 筒井八男治 (函館中) 2:55.8 |
| | 3. 古莊 次平 (稻泳會) 3:00.2 |

2 コースを泳いだ中川は意外50米及150米のターン反則で折角2等になりながら失格となつた。

決 勝

コース 2. 葉室、3. 高畠、4. 古莊、5. 奥藤、6. 大崎、7. 筒井、8. 小池、スタートするや、大崎、葉室急調に小池をリードし50米の折返しは大崎、小池、葉室の順、100米依然大崎トップで小池、葉室同着で大接戦、125米に至り小池漸くスピードを増し大崎を抜いて先頭になり益々差を擴げて8米のリードで快勝、葉室、大崎はタッチの差、奥藤は筒井と競つて四着となる。此のレースは全種目中一番新人の活躍せるもので、中等學校の葉室、高畠、筒井等の擡頭

は鶴田の引退を償つて餘りあるものである。小池は前半のスピードを落した爲新記録は出なかつたが依然平泳の第一人者である。

男子 800 米リレー決勝

1. 小池 禮三 (靜 浦) 2:44.6
2. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 2:51.4
3. 大崎卯藤久 (弦泳會) 2:52.0

コース 5. 稻泳會、7. 聖ポール、8. 高知商業、明大の棄權で興味のないレースだつた。稻泳會の記録はオリンピックの米國チームと匹敵し、高知商業の少年チーム記録は同じく洪牙利チームより良い。日本の一チームの作る、それ程でもない記録が一外國が作る最良チームの記録と甲乙がないと云ふのだから日本水泳界も随分進んだものである。

牧野が2分14秒臺で泳いだことも見逃せない。

- | | | |
|----------|--------|-------|
| 1. 稻 泳 會 | 9:11.0 | |
| | 牧野 正藏 | 片岡寅次郎 |
| | 新聞 六炳 | 横山 隆志 |
| 2. 高知商業 | 9:34.4 | |
| | 横山 清一 | 前島 一郎 |
| | 明神 泰吉 | 北村久壽雄 |
| 3. 聖ポール | 9:42.4 | |
| | 本田惣一郎 | 田野 耕精 |
| | 鶴岡 榮 | 根上 博 |

女子 100 米自由形

豫 選

- | | |
|---|-------------------------|
| A | 1. 鹽見 梅子 (椋山女學園) 1:17.4 |
| | 2. 渡部こまつ (愛知淑徳) 1:21.0 |
| | 3. 須藤 光代 (横濱一女) 1:22.6 |
| B | 1. 荒田 雪江 (京都 二條) 1:15.0 |
| | 2. 増山 ちせ (平塚高女) 1:19.0 |
| | 3. 小木曾治子 (愛知淑徳) 1:15.4 |

決 勝

コース 2. 須藤、3. 小木曾、4. 荒田、5. 鹽見、6. 小島、7. 増山、8. 渡部

小島、荒田の接戦が素晴しかつた。50米では荒田、鹽見、小木曾、小島の順であつたが70米で小島スタートして荒田に迫つたが1ストロークで及ばず二等になつた。

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 荒田 雪江 (京都 二條) | 1:16.0 |
| 2. 小島 一枝 (椋山女學園) | 1:16.6 |
| 3. 鹽見 梅子 (椋山女學園) | 1:17.8 |

女子 200 米自由形

豫 選

- | | |
|---|-------------------------|
| A | 1. 竹村 令子 (京都武徳會) 3:02.0 |
| | 2. 増山 ちせ (平塚高女) 3:04.0 |

3. 須藤 光代 (横濱一女) 3:06.6
 番外 小島一枝 (椋山女學園) 2:47.6 (日本新)

- B 1. 鹽見 梅子 (椋山女學園) 2:56.2
 2. 河村 静子 (横濱一女) 2:59.2
 3. 古閑 久子 (熊本中央女) 3:00.6

決勝

コース 2. 鹽見、3. 小島、4. 河村、5. 増山、6. 須藤、8. 古閑、7コース竹村は棄権、小島然斷強く、100米で鹽見を5米、ゴールでは13米引離して一着、名古屋で作った2分45秒には及ばぬが日本新記録を作った。

1. 小島 一枝 (椋山女學園) 2:48.2 (日本新)
 2. 鹽見 梅子 (椋山女學園) 2:59.8
 3. 河村 静子 (横濱一女) 3:06.4

古閑嬢はタッチの差で四着。

女子400米自由形

豫選

- A 1. 北島 静子 (椋山女學園) 7:01.6
 2. 西村二三子 (武蔵野女學院) 7:17.0
 3. 伊達みそぎ (京都武徳會) 7:30.6
 番外 守岡初子 (茨木水泳團) 6:00.8 (日本新)

300米4:26.6 (日本新)

- B 1. 竹村 令子 (京都武徳會) 6:28.2
 2. 河村 静子 (横濱一女) 6:29.4
 3. 古閑 久子 (熊本中央女) 6:37.0

此の豫選は選手の組合せが適當でなかつた爲、A組では7分を切るものがないにも拘らずB組では最後の古本でさえ7分を切つて居た。心すべきことである。

決勝

コース 2. 北島、3. 守岡、4. 西村、5. 竹村、6. 古閑、7. 河村、8. 伊達、守岡の獨り舞臺、最初から飛出して40米の差で一着、途中300米は4:27.6で豫選の時より悪かつたが、最後の100米を頑張つて又新記録を作った。

1. 守岡 初子 (茨木水泳團) 6:00.4 (日本新)
 2. 竹村 令子 (京都武徳會) 6:31.2
 3. 古閑 久子 (熊本中央女) 6:37.2

此のレースでは、河村嬢がタッチの差で古閑嬢に敗れた。

女子100背泳

豫選

- A 1. 小木曾治子 (愛知淑徳) 1:32.8
 2. 菱木フサ子 (京都二女) 1:33.8
 3. 大木 櫻子 (東京第六) 1:39.6
 B 1. 初田 久子 (京都二條) 1:35.4

2. 高野 菊枝 (愛知淑徳) 1:35.6
 3. 吉田 文子 (愛知一女) 1:38.0

決勝

- コース 2. 横田、3. 吉田、4. 高野、5. 小木曾、6. 初田、7. 大木、8. 菱木

オリムピック選手横田悠々5米の差で一着。

1. 横田 操 (京都武徳會) 1:30.4
 2. 小木曾治子 (愛知淑徳) 1:34.2
 3. 菱木フサ子 (京都二女) 1:36.0

女子200米平泳

豫選

- A 1. 中村 芳江 (京都二女) 3:18.4
 2. 久原 菊子 (京都武徳會) 3:21.4
 3. 盛 多賀子 (平塚高女) 3:39.4
 番外 前畑秀子 (椋山女學園) 3:08.2
 B 1. 淺井 品子 (愛知一女) 3:24.4
 2. 眞下 榮子 3:25.6
 3. 柳瀬 しづ (筑紫高女) 3:29.0

決勝

- コース 2. 柳瀬、3. 前畑、4. 淺井、5. 久原、6. 中村、7. 眞下、8. 盛

前畑は前日39°の高熱を出しコンディション不良折角の奮闘も好記録を出すことが出来なかつた。

1. 前畑 秀子 (椋山女學園) 3:13.6
 2. 中村 芳江 (京都二女) 3:19.6
 3. 久原 菊子 (京都武徳會) 3:22.4

女子400米リレー決勝

- コース 2. 府立四女、3. 平塚高女、4. 京都二條、5. 椋山女學園、6. 愛知淑徳、8. 京都武徳會

メンバーの顔觸れから見ても椋山の一着は確實だつた。果して椋山一番鹽見二條を2米近くリードして前畑に移る。前畑の餘技クロールも相當で二條の乾を10米とし、三番主將水野更に11米、ラストの大豪小島は悠々と泳いで15米の差でゴールす。

1. 椋山女學園 5:21.2
 鹽見 梅子 前畑 秀子
 水野スバエ 小島 一枝
 2. 京都二條高女 5:32.6
 横井 キヌ 乾 芳子
 櫻井 アイ 荒田 雪江
 3. 京都武徳會 5:40.2
 竹村 令子 伊達みそぎ
 横田 操 久原 菊子



昭和八年度日本選手権大會

水 球 概 観

廣 瀬 秀 俊

三日に亘る盛大な大會を通観して水球に関する事どもを感じた儘二三書誌して見る、實の處私は全試合を正確に観て居ない。何チームの誰が何の試合で何んなプレイをしたかに就いて、後にこの様な記録を書く心算が無かつたので正確な記憶を缺いて居るのである。殊に決勝試合は勤務の関係上前半を見落して了つて居る。文中事實の點に就て奏合しない處が若しあるなら豫め御諒恕を願ふと俱に敢て概歡と題してお許しを乞ふ次第である。

申込並に出場チーム數は前年選手権保持者たる稻泳會を加へて八、本大會稀に見る盛觀である。或はインターカレッジを除いては、他の大會に於ても絶無かも知れぬ、正に水泳日本の最高峰を競ふ本大會として相應しいものであつた。而もそれにも優る喜びは八つのチーム全部が眞面目に水球を行ふ相當の技術を備へたチームであつた事だ。是は口にするだにお恥しい事なのであるが事實從來迄は選手票獲得の目的で半ばお祭り騒ぎに出て來るのがあつた、無論地方の豫選會では相手がないのであるから堂々と推薦されてバスしては來るが大會ではボスハンドは無論の事ゴールを蹴つて出たりコーナーフラッグからコーナースローを平氣で行ふ様なのが屢々見受けられた、今年は斯ふ言ふ手合が一つもなかつたと云ふ事は一つは茲兩三年に於ける水球の普及とその異常なる發達によるものであらふ。

公式記録によれば三日を通じて得點の差に十を越えるものがない、この様に八つのチーム全てが何れも相當のゲームを進めて居るのを見て更にこの感を深くしたのである。

乍併之を以てして直ちに我國水球の爲に祝盃を擧げてはならないと思ふ。成程之丈のチームが何れも十點以内で戦ひ得ると云ふ事はたしかに水球の發達した結果であると云へやうが、一方に於てこの事は上位チームの力量不足、語を換へれば上位チームの技量の進歩と下位チームの技術の發達が比例しなかつたと言へないだらふか。私の觀る處では接戦の理由は寧ろこの後者にある様だ。

試に決勝戦を觀れば前年の覇者稻泳會チームはオ

リムピック選手四名を擁する堂々たる顔觸れで前半慶應義塾を2-0と離し乍ら後半逆に0-1と追つめられて勝つて居る。デイフェンダーとして直に決勝に望む絶大な特典を有し乍ら豫選、準決勝と經て來た慶應義塾にあれだけ肉迫されて居るのである。それならば慶應義塾は強かつたか。悲しい哉答は然らずである。不戦一勝となつた慶應は第二回戦で横濱外人團と當つて居るが前半外人團ダウンの強引なシュートに2點を先取されて2-1とリードされ後半漸く澤海、磯邊のシュートで三點を返して辛勝して居る。準決勝の對早大戦に於ても殆ど新しい人達を以て組織された此のチームに對して、前、後半僅に2點宛を獲たのみである。此の決勝に残つた、稻泳會並慶應義塾は何れもオリンピック選手として日本を代表した人達を四人或は二人を加へて居るのであるがその技量は疑も無く昨年度の大會より下にあると思ふ。勿論此の兩チームとも昨年オリンピックから仕入れて來た、戦術乃至は技術を試みんと努力はして居るが、練習不足の爲め未だ體を爲して居ないのである、技術はあるが練習不足、上述の上位チームの力量不足は確かに茲に起因して居ると思ふ。

この練習不足は一つは倶樂部の存在しない事、即ち在學時代五六年かかつて漸く水球の眞髓を體得した人達が纏つて練習する機會のない事、並に今大會が學生チームとして纏つた練習をするにはシーズン外であつた事だ。取り分け前者は今回に限らず今後共重要な問題と思ふ。日本の水球を強くするのは何等かの形式で斯ふ言ふものを吾々が持たなければ到底不可能だとさへ私は思ふのである。

以下各試合毎に眼を轉じて見やふ。

第一日

☒ 弦泳會 對 横濱外人

昭和八年全日本水上選手権大會の華々しい幕はこの一戦によつて切つて落されたのである。横濱外人團は先年二年連勝して全日本の覇を握つて居た神戸外人團のシャーマー君をハーフバックに迎へて非常に張切つて居た。練習も非常に良くやつて居た跡が見えた。弦泳會では茨木中學に居た岸本君が光つて

居た様だ。試合は三時半開始センターボールは弦泳會先づ取つて型の如く廻し F.W へ返す、F.W 能く奮闘して開始後三十七秒堀川君ゴール右前からのシュートを行つたが惜しくも外れて外人團のゴールスローとなる。次で外人團は攻撃に移り R.W フイダス君は長身を利して得意の敵の逆を衝くモーションで、二分二十五秒、三分五一六秒に得點し、C.F ラフィン君又四分三十六秒に得點して前半に於てすでに勝を制した型であつた。弦泳會は良く動くだがその F.W はボールが扱へなかつた様だ、モーションが大きく屢々タツクルせられて居るのを見受けた。

☒ 明治大學 對 成城高校

之は前半 1—1、後半 1—0 の大接戦である。開始後五十五秒、明治 H.B 榎本君混戦からの球を得て先づゴールを覗つたが G.K の好防に阻れて得點ならず、爾後一進一退で兩軍何れも二、三ゴールを狙つたが成らず。五分二十五秒成城 C.F 森君バツクよりのパスを得て先づ得點すれば、明治も續く六分二十三秒 C.F 篠君混戦よりの球をゴールして同點にて前半を終る、後半明治は能く奮闘して終始成城軍を壓迫して居たがシュート弱くものに成らず。成城軍は六分近く R.B 河野君ドリブルで抜いて出て決勝の一點を擧げた。明治は個々の人のプレイを觀れば確に成城の上にあるがチーム全體の動きが悪かつた。水球を初めてから茲數年になるが未だに動きがバラバラである、チーム全體としての戰術の研究が足りないのではなからふか。

☒ 早稲田大學 對 靜浦遊泳協會

靜浦は殆ど商大の選手で固められて居た、中にも往年の勇者川口氏が、或は R.F として或は R.B として大活躍をなして居たのが目に付いた。之に依つて同軍の士氣は大いに鼓舞された事は疑ひない、試合は残念乍ら前半 6—0 後半 4—0 で早大軍の蹂躪する處となつたが靜浦は能く奮闘した、而し早大軍に比べてパスが遅く、スローイングの際、體が沈んで居た。もつと體を飛び上らせてボールを扱ふのでなければとても早い正確な授受は望めないと思ふ。H.B の鈴木君 C.F の水谷君あたり能く動いてシュートして居たが何れもタイミングが悪く、タツクルされて居た。

第二日

☒ 慶應義塾 對 橫濱外人

外人團は良く練習したらしく非常な元氣で對陣した。前半開始後二十五秒にして二碼邊にフロートして居たダウン君はバツクからのパスを受ける若林君のタツクルを物ともせず、沈み乍ら手首のスナツプ丈でゴールに強球を送つて得點した。同じく前半五

十二秒に得たのも同様のものではあつた、體の大きいをしてゲームの強引をダウン君を此のゴール二碼邊にフロートせしめて C.F フイダス R.F ラフィン、H.B シャーマー 君等でゲームをリードして行く邊り確に策戦は功を奏して居た。劈頭の得點に慶應は狼狽したかの如く二分から四分の間に八個のシュートを送つたが何れも物にならず六分漸く磯邊君が一點を返したのみで 2—1 とリードされた儘前半を終る。後半ダウン君はマークされて横濱外人に得點なく、逆に慶應は落付きを見せて五十三秒。二分三十九秒四分八秒。澤海、磯邊得點して 4—2 で勝つ。期待されたシャーマー君は活躍せず G.K. M フアクトマン君の好防が相變らず目立つて居た。二碼邊にフロートするダウン君の如き戦法に對してはフルバツクは内側からマークすると云ふ大原則の例外として反對に外側或は横からマークしなければならない。頭を越す敵のパスはゴールキーパーに委ねてフルバツクはそれをカットする様に出なければならないのである。若林君は後半、之を行つて成功して居た様だ。慶應のシュートは得點 4 に對して 23 である少し多くはないか。

☒ 早稲田大學 對 成城高校

早大は高木、熊野、若山等の活躍によりよく球を廻して前半四點を獲た。殊に高木君のスピードとボールハンドリングの巧みさによつてチャンスを屢々生かして居た。成城は森、鈴木君等が二、三ゴールを狙つたのみであるのは淋しい。よく纏つた良いチームだと思ふが未だプレイヤー相互間の連絡が足りない様だ、ウイングが屢々ドリブルで抜いて出て之にフォローするものが無かつた。個々の技術に就てもドリブルから直ぐパスし或はシュートする事が出来なかつた様だ。

準決勝

☒ 慶應義塾 對 早稲田大學

開始後直に早大の攻撃になつたが熊野君ファウルして若林君にフリースローを取られ慶應側の攻撃に移り五十三秒澤海君先づ得點する、其後慶應攻めたが K.G 松本君に阻れて少時得點なく漸く六分十九秒本村君得點して 2—0 で前半を終る、後半開始後二十一秒磯邊ゴールして早大の出鼻を挫き勝負を決したかの感があつた、而し早大も奮起して二分、三分、四分頃には高木君、熊野君盛にゴールを脅して居たがシュートに鋭さを欠き得點とならず、却て五分慶應澤海君に得點されてタイムアップとなる。早大は終始慶應に壓迫されて日頃見られる如きパスワークなく敢なく破れたが、高橋君、坂上君等の抜けたこのチ

ームとしては止むを得ないであらふ。只 G.K 松本君が G.K の他の重要な役割である F.B への返球がひどく悪かつたのが不思議に感ぜられた。G.K が敵のシュートを止めて F.B へ返球する事は友軍攻撃の第一歩である。之の巧拙は爾後の戦局に甚大な影響がある。此の事を心得ない松本君ではない筈だがどうしたものか何れも低い矢の如き返球を水面に叩き付けて居た、あれでは味方の F.B は脅えて了ふだらふ。

第三日。決勝戦

☒ 稲泳會 對 慶應義塾

稲泳會は前年度並、前々年度の覇者であるそのメンバーも G.K の松本君と L.F の坂上君を缺くのみで昨年度と大差ない。ゲームは三時十四分審判員安部氏の笛聲によつて開始された、センターボールは慶應取つて直に攻撃に移つたが F.W 澤海君にファウルあつて返さる、その後兩フルバックの長投により一進一退を見せたが一分慶應方ゴール直前にフロントして居た時任君の右前にボールはパスされ G.K 小柴君良く飛出し F.B 勝君又之を良くカバーしたが及ばず左隅を破つて稲泳會先づ得點する。再開後慶應球を得て磯邊君再度ゴールを狙つたがならず、二分五十七秒黒川君シュートしたが外れて、稲泳會木島君のゴールスローとなる、後稲泳會側の攻撃となり數度慶應軍のゴールを脅し慶應又必死に防戦する中若林君に故意反則あり同君退水を命ぜらる。後稲泳會側は一人を餘して有利に進め五分二十三秒時任君ゴール直前にパスを受けてゴールを狙ひ、慶應軍又 F.B K.G 三人にてゴールを死守したが及ばず稲泳會更に一點を加へる。既に二點をリードして優勢裡に後半に入る。後半慶應必死に攻撃するが稲泳會又能く防いで混戦を續ける中、三分三十八秒磯邊君 F.W からの球を中央近くに得てゴールを狙へば見事極つて一點を返す、その後尙も慶應方攻撃を續ける中黒川君ノーマークとなつてドリブルに出てゴール前數ヤードに及んだが稍あせつて遠目にシュートし球は惜しくもバーを越して木島君のゴールスローとなり絶好の機会を逸す。兩軍爾後一進一退を續けて得點なくタイムアップとなる。

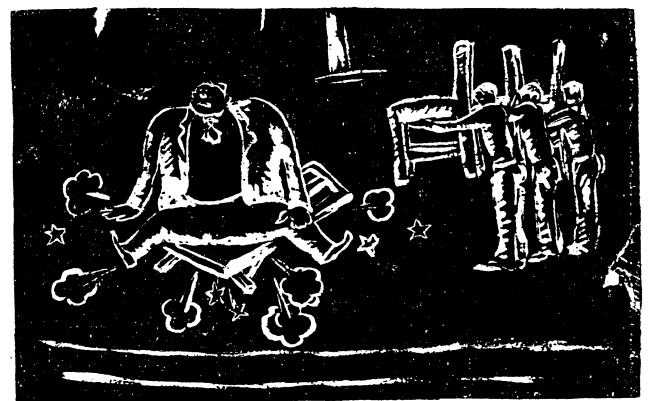
流石に決勝の一戦丈あつて他のゲームに比して球の捌きも鮮かに、全體の動きも見事に見えた。稲泳會にあつては永年バックスとして活躍した時任君が F.W に出て二碼邊に停止してゴールゲッターたるの役目をして居た、乍併此の戦法は決勝の 2 點を獲得して一見成功したかの如くであるが、それは慶應側の防禦に對する處置が悪かつたが故であつて、決して時任君が何かで盛んに推賞して居た停止前衛と

しての役目を果たしたものではない。永年のバックスとしての癖がある爲同君は球を扱ふ際必ず水より上げて居た、それが爲折角球を得てもシュートは勿論パスする事さへも出來ずにタツクルされて居た。同君の二個の得點が何れもノーマークの場合よりなされて居るのは此の爲である。バックでは藤田君が元氣な處を見せ、タツクルでは土井君が鮮であつた、竹林君は忠實に球に良く付いては居るが、相變らず球扱ひが悪い様に見えた。

慶應は何故に敗れたか。原因は色々あるだらうが直接の原因としては積極的には F.W 三人のコンビネーションを缺いて居た事とリードされてから後に此チームの特有なあせり癖が出た爲と思ふ。後半に於て黒川君がノーマークとなつてドリブルに出た時、左側には磯邊君が居たのである、よく顔を上げて泳ぐ同君として之が見えない筈はない。何等かの方法で之を利用すべきである。只磯邊君に聲を掛ける丈でも G.K 木島君には大なる脅威であつたと思ふ。次に消極的には G.K 並にバックスの不決斷である最初の得點を許した時小柴君は時任君をタツクルにゴール左前に一度飛び出し乍ら再びゴールを守護すべく戻つて居る、此の時友軍の勝君は逸早く小柴君をカバーしてゴールに入つて居た、小柴君としてはそれに氣が付いて居たなら積極的にタツクルに出るべきだつたと思ふ。

斷か、然らずんば否か、戦ひには遲疑逡巡は最も忌むべきである。

免まれ稲泳會は三年連続優勝したのである。而も練習不足ではあつたが全メンバーを O.B を以て組織した元氣には敬服すべきものがある。曩に一言したが、水球は今後 O.B がもつともつと活躍しなければ到底發達の見込はないと思ふ。其の點で、第一に手を着けられたものと云つて良い早大 O.B の健闘を祈りたい。(妄言多謝)



大會異聞 杉村陽太郎氏椅子踏みつぶすの圖
牧野君世界レコードを破つたトタン杉村氏の椅子御覽の通り一
所で氣の利く會場人夫君、氏のために捧ぐるにナカワリ三ツ。

第一豫選 8:12

明大對成城高校	靜浦對早大
稻熊 I.F. 河野	多田 L.F. 大岩 田
篠 C.F. 森	水谷 C.F. 高木 野
竹村 R.F. 鈴木 木	川口 P.F. 熊野 山
榎本 H.B. 白井 丸	鈴木 H.B. 若友 田
金田 L.B. 内丸 野	眞田 L.B. 友延 東
中島 R.B. 河野 村	大井 R.B. 延東 本
畠山 G.K. 中村	大橋 G.K. 杉本

1 前半 1	0 後半 6
0 前半 1	0 後半 4
1 對 2	0 對 10

第二豫選 8:13

弦泳會對橫濱外人	慶應對橫濱外人
堀川 L.F. ダウン	澤海 L.F. ダウン
川喜田 C.F. ラフィン	磯部 C.F. ファイグス
野村 R.F. フィチエス	木村 R.F. ラフィン
岸本 H.F. シャーマー	黒川 H.B. シャーマー
野 L.B. Hファクトマン	勝 L.B. Hファクトマン
藤 R.B. シェーネー	若林 R.R. シャーネー
野 G.K. Mファクトマン	小柴 G.K. Mファクトマン

0 前半 3	1 後半 2
1 前半 2	3 後半 0
1 對 5	4 對 2

準決勝 8:13

成城對早大	慶大對早大
河野 L.F. 岩田	澤海 L.F. 大岩 田
森 C.F. 高木 野	磯邊 C.F. 熊野 木
鈴木 R.F. 熊野 山	木村 R.F. 高木 田
白井 H.B. 若友 東	黒川 H.B. 友延 本
内丸 L.B. 友延 東	勝 L.B. 延東 本
河野 R.B. 延東 本	若林 R.B. 若松
中村 G.K. 松本	小柴 G.K. 松本

0 前半 4	2 前半 0
0 後半 3	2 後半 0
0 對 7	4 對 0

決勝 8:14

慶大對稻泳會	學生チーム對O.B.
澤海 L.F. 上野	堀川 L.F. 竹林
磯邊 C.F. 外川	高木 C.F. 上野
木村 R.F. 時任	熊野 R.F. 時任
黒川 H.B. 竹林	若山 H.B. 藤田
勝 L.B. 藤田	岸本 L.B. 岡田
若林 R.B. 土井	延東 R.B. 土井
小柴 G.K. 木島	松本 G.K. 庄野

0 前半 2	2 前半 1
1 後半 0	0 後半 0
1 對 2	2 對 1

昭和八年度日本選手權獲得者

一、男子競泳

男子一〇〇米自由型	五八秒二	遊佐正憲 (日本大學)
同 二〇〇米自由型	二分一三秒〇	遊佐正憲 (日本大學)
同 四〇〇米自由型	四分四六秒四	牧野正藏 (稻泳會)
同 一五〇〇米自由形	一分九分八秒〇	北村久壽雄 (高知商業)
同 一〇〇米背泳	一分一一秒〇	清川正二 (東京商大)
同 二〇〇米背泳	二分三五秒八	清川正二 (東京商大)
同 一〇〇米平泳	一分一四秒八	小池禮三 (靜浦)
同 二〇〇米平泳	二分四四秒六	小池禮三 (靜浦)
同 八〇〇米リレー	九分一一秒〇	稻泳會 (牧野正藏、片岡寅次郎、新聞六炳、横山隆志)

二、女子競泳

女子一〇〇米自由型	一分一六秒〇	荒田雪江 (京都二條)
-----------	--------	-------------

同 二〇〇米自由型	二分四八秒二	小島一枝 (椋山女學園)
同 四〇〇米自由型	六分〇〇秒四	守岡初子 (茨木水泳)
同 一〇〇米背泳	一分三〇秒四	横田みさを (京都武徳)
同 二〇〇米平泳	三分一三秒六	前畑秀子 (椋山女學園)
女子四〇〇米リレー	五分二一秒二	椋山女學園 (鹽見梅子、前畑秀子、水野スズエ、小島一枝)

三、男子飛込競技

男子飛板飛込	一三九、三六	柴原恒雄 (日大三中)
男子高飛込	九二、一二	原秀夫 (三水會)

四、女子飛込競技

女子飛板飛込	七四、七〇	大澤政代 (F. D. C)
女子高飛込	三三、四二	

島崎惠美子

五、水球
稻泳會チーム

日本選手権大會の飛込競技

山内辰雄

新しく變更された規定飛の第一年目として如何にそれを各ダイヴァはこなして見せるかと云ふ興味をもまぢへて全日本選手権は女子の飛板飛込を第一日に次々と展開された。以下行にれた競技種目の順に氣付いた點をのべさせて戴く。

規定飛が現在の女子のダイヴァには少しレベルが上り氣味のせい、昨年飛板飛込に出場した女流ダイヴァの多くが、或は止め、若しくは高飛込のみに出場し、結局、昨年選手権保持者である大澤政代と香野兩嬢の東西の一騎打ちとなつたわけ。

香野嬢の走物の確實な踏切は男子をしのぐ力強さを見せたが、フォーム及び入水の技にまだ未完成の個處が多く敬服すべき猛練習と聞いたよけに今後の發憤を祈つて止まぬ。イザンダー及び前の一回首宙返りはかなりな美事さを見せたが、腕の開きのフォーム及び入水に今一段の研究がつまれて居つたら9點級の飛込とならう。後踏切ものの腕のモーションにも少し難がある様である。

大澤が再び選手権を獲得したのは香野嬢にくらべて走り物の踏切では負けてゐるが、フォーム及び入水で断然！下したからであらう。それに競技馴れ

競技者 (姓・名)	規定飛			選擇飛			順位 姓名 (所属)
	1	2	3	1	2	3	
大澤 2	10.80	22.02	36.84	50.88	61.90	74.70	I 大澤政代 (F.O.C.)
香野 1	9.72	20.26	35.08	48.76	57.08	65.08	II 香野文信子 (甲子園聖明)

もして選手権保持者の貫録を示してゆうゆう落著いた態度で踏切つたのも大きな原因であつたらう。その點香野嬢は最初の前一首宙返りの踏切から落著きを缺いてゐる様である。選擇飛に後宙返り一回を採つた事も香野嬢の實力からして少し物不足なさを感じさせた。

男子高飛込は9名出場、飛板を美事にこなす原秀夫君の技が一番巧味があつたがミスが少しづつあつたので途中迄奥平、岩切兩君に抑へられてゐるが、最後の逆立中抜け後逆飛で危ぶなく優勝、併し前逆飛や後宙返り一回等ははずば抜けて大きなフォームを見せ現在の高飛込では第一人者であると確實に感じさせられる。二等の岩切君三等の奥平君と三者ほとんど互格の點數で、特に奥平君の身體の伸びは綺麗だつたが、まだ踏切に技を掛け過ぎて、自分自身で技をこなす段になると板飛板の練習が缺けてゐるだけに原君の空中に於ける巧味には相當の距離がある様だ。岩切君の技には柔味が缺けてゐる。技をこなす事は原君以上に樂々とやつてるが、空中モーションが單純過ぎて畫くにぎごちなさを感じさせる。

末次君の身體の伸びも美事だ、併し基礎工事が未完成なので技を掛けるモーションに自信を見出せず、兎角落著きを缺いて常の練習熱心にむくわれなかつた。水谷、永松兩古強者の出場は兎角早老性に落入り易い我國競技界の爲に喜ぶ可き現象である。併しどうせ出場するからには、もつと練習を積んで負けてもくひなき競技振りを見せて貰ひたかつた。水谷君など昨年に比べて著しい稠落振りである。三谷君、牧野君、上山君等の飛込は未だフォームをなしておらず、今後飛板の練習に依つてしつかりした基礎工事をなす可きである。

高飛込で特に目立つた事は後踏切ものに於ける踏

競技者 (姓・名)	規定飛				選擇飛				順位 姓名 (所属)
	1	2	3	4	1	2	3	4	
原 3	17.92	17.30	31.70	44.62	56.27	67.30	80.70	92.12	I 原秀夫 (三水会)
奥平 2	7.70	16.32	30.36	44.04	55.04	67.48	80.46	92.6	II 岩切盛行 (明又)
水谷 8	7.48	15.64	28.06	40.82	54.12	67.48	79.80	90.58	III 奥平信三 (三水会)
永松 9	7.26	14.74	27.6	40.60	51.62	62.64	70.24	83.16	IV 末次保 (東海大学)
末次 7	7.04	14.22	26.00	33.24	47.32	60.36	67.76	82.64	V 水谷泰夫 (三水O.B.)
岩切 4	6.82	13.76	21.38	31.70	40.88	49.52	56.56	67.5	VI 永松茂 (F.O.C.)
牧野 5	6.82	12.82	21.06	30.88	40.16	47.30	56.42	64.02	VII 三谷亮 (三水O.B.)
三谷 6	6.38	12.38	19.30	28.04	34.44	40.14	47.34	50.76	VIII 牧野康成 (三水O.B.)
上山 1	5.94	10.02	16.14	18.54	23.74	27.20	36.28		IX 上山隆 (三水O.B.)

男子飛板飛込

順位	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	順位
柴原 12	14.04	25.26	40.02	48.92	61.52	76.22	89.66	97.14	123.52	139.56	1
原西 13	13.68	25.20	39.32	46.05	52.14	70.74	84.52	98.40	113.80	129.40	2
杉原 5	12.96	23.12	35.96	46.10	56.54	69.84	83.28	98.20	113.32	124.42	3
石川 9	12.60	23.94	34.94	41.20	53.44	65.82	82.90	97.26	110.00	119.60	4
吉本 8	11.16	22.36	33.54	41.18	53.06	61.74	71.36	79.70	88.08	99.86	5
永井 4	10.52	21.02	31.96	40.82	49.82	61.10	70.70	79.28	86.66	97.06	6
塊原 2	10.00	21.00	31.72	40.60	49.50	60.28	68.28	76.66	86.18	94.92	7
石川 8	10.80	20.18	30.00	40.58	48.18						8
永井 1	8.28	19.66	29.54	35.94	54.30						9
小倉 7	7.20	17.40	23.10	30.78	37.98						10

規定飛は七位まで
選擇飛を行ふ。

切の膝及び足先のモーションを確實に抱んで踏切つてゐるダイヴァの少ない事と、後途中宙返りの伸びが、スローモーションで水面に直角に伸ばしてゐるが、途中宙返りものはタックする時も伸ばす時もつとスピーデーにやらなければ途中宙返りらしく見られない。一體にタックを小さくしつかり抱へぬ為伸びも自然ガラガラとなるわけである。

女子高飛込は六名出場、香野嬢をのぞく他は總べて關東で、いさゝか淋しい。併し何れもが技量迫中で結局は落著きと踏切時に於ける意識のたしかさで十米の走前逆飛と五米の後宙返り一回に素晴らしく美事な處を見せて島崎夫人が再び選手權を獲得した。板飛では揚り氣味だつた香野嬢こゝでは斷然落著きを見せて高さに対する觀念のしつかりさと技のこなしの巧味を見せて一番平均した點數を採つて島崎夫人に惜しくも破れた。林悦子さんも猛練習に次ぐ猛練習で技に確實味が出來て來て十米の立前逆飛は隨分美事だつたが、まだ年若なだけに全體に落著いた意識が缺けてゐる様である。大澤禮子があつたら相當なフォームを持ち乍らあの日はどうした事かてんで揚つちまつて踏切に意識なく四種目共全部投げられちまつた。今年は職業を持つて昨年の1/4も練習してゐないので無理もないが、それにしても26點代ではなさない。大澤政代も飛板の練習に全力をそゝぎ、高い方は餘技と云つた形だつたが、香野嬢程の高さに對する觀念が無く三つの大きな失敗をしてつた。新進山路嬢の技は今後期待出來様。

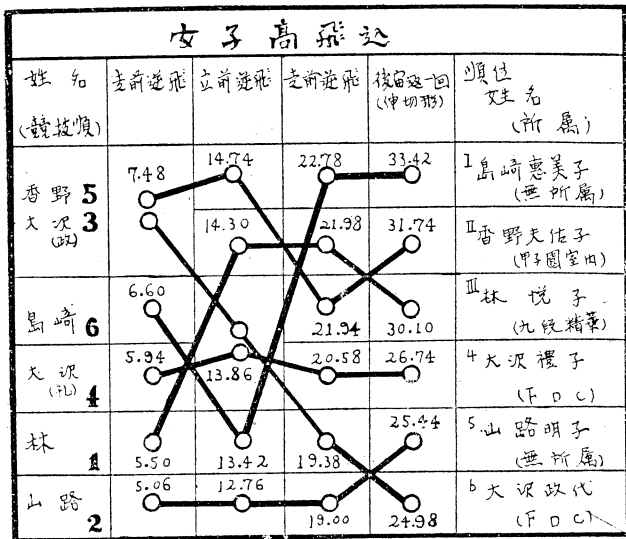
第三日目の男子飛板飛込は出場者十名、その中規

定飛のみで豫選をやつて残つた者七名。途中水球競技があつて残りの七名で選擇飛を行つた。柴原が五月以來この一戦と最高種目を揃へて猛練習に猛練習を重ねてのぞみ145點をねらつたが、未だ十七歳の若冠競技にのぞみ原秀夫君程の落著きなく、不斷得意とする後蝦飛及び後踏切前宙返り一回に目立つた失敗をやつちまつたが、規定飛から徐々にリードして139點36で優勝、途中迄原秀、原西、杉原三君が柴原に次いで接戦したが、選擇飛で原秀君が素晴らしく好調で特に前宙返り二回半、走前踏切後宙返り二回、及び後宙返り二回を美事にやつてのけ、原西及び杉原君を斷然抑へた。後蝦飛と走前踏切後逆飛で大きなミスをしなかつたなら柴原君と接戦しその得點も140點に近かつたらうにと惜まれる。原西三君は規定飛で相變らず確實味を見せ第二位に續いてゐるが、長い選手生活をやつてゐるくせに、不思議に揚る性質と見え、選擇飛を始めるときには顔色がまるで變つてゐた。昨年のオリンピック豫選の時もそうであつたが、あつたら實力を持ち乍ら惜しいと思はれる。只後踏切ものの踏切時に身體を後へ掛け過ぎるので高さが採れず、見榮へのしない飛込となつて了つてゐるのが昨年とくらべて眼にうつる。杉原君も踏切の姿勢は原西三君同様、ほとんど完全に近く、走前踏切後逆飛及び走前踏切後宙返り一回は實に美事であつたが、後援續かずで、選擇飛終りの二種目をミスして了つて原西三君にしてやられたが昨年當りから本格的な進歩の道に進んで來てゐるから若いだけに今後の進歩が樂である。後の吉本、永井、塊原三君はずつとレベルが落ちるが、何れも新進中の白眉で前途は洋々である。

以上四つの競技を見て特に感じた事は飛板飛込の走りものの踏切時に未だ膝を曲げたなりで板を踏むダイヴァの居る事と入水の下手なダイヴァの多い事である。十米からでは水面上三米、三米飛板では水面上一米での入水の姿勢及び突込みの氣分をしつ



高飛込入賞の奥平、岩切、原(秀)の三君



り抱んでるないダイヴァが甚だ多い。それらの事は
 コーチャーに附いて指導を受けなければとうてい自
 分一人では解らず、そして優勝する爲には絶対にコ
 ーチャーに附かなくてはならない。

とまれ、女子飛板の大澤、香野、男子飛板の柴原、
 原秀、杉原の五君の通歩振りをもつてすれば日本の
 飛込界も男子の競泳同様、世界に覇を稱える事も近
 きにありと思はせられた。

只遺憾に思はれたのは聯盟のお孫元のプールで行
 はれたのに、飛板の悪かつた事である。若しもつと
 良好な弾性のある飛板を使用したなら一般にもつと
 良好な成績を上げ得た事と残念に思はれる。

男子飛板飛込

競技順	姓名	所属	飛込	1	2	3	4	5	合計	順位
1	永井 政一	(甲子園室内)	規定飛	8.28	11.90	11.40	9.60	8.64	(49.82)	(6)
			選擇飛	10.44	8.00	8.40	10.00	10.40	97.06	6
2	塊原 一夫	(茨木中)	規定飛	10.80	11.56	9.50	8.96	12.24	(53.06)	(5)
			選擇飛	8.08	8.96	9.00	6.48	8.74	94.92	7
4	久保 貢	(茨木中)	規定飛	11.16	8.50	9.88	10.40	9.36	(45.30)	(9)
			選擇飛	出場資格を失ふ。						
5	杉原 雪夫	(三水會)	規定飛	12.96	12.24	14.82	11.08	10.44	(56.54)	(3)
			選擇飛	13.30	13.44	15.12	11.60	9.60	119.60	4
7	小倉昭一郎	(横濱D.C.)	規定飛	7.20	10.20	5.70	7.68	7.20	(37.98)	(10)
			選擇飛	出場資格を失ふ。						
8	原 酉三	(三水會)	規定飛	11.16	9.86	14.44	11.52	11.16	(58.14)	(2)
			選擇飛	12.60	12.16	14.96	15.96	10.80	124.62	III
9	石川 金繼	(明大)	規定飛	12.60	11.22	11.02	5.76	7.56	(48.18)	(8)
			選擇飛	出場資格を失ふ。						
11	吉本 茂	(日大)	規定飛	10.80	10.20	12.54	7.04	7.92	(48.50)	(7)
			選擇飛	12.60	10.26	7.92	8.80	11.78	99.86	5
12	柴原 恒雄	(日大三中)	規定飛	14.04	11.22	14.06	9.60	12.62	(61.52)	(1)
			選擇飛	14.70	13.44	17.48	16.38	15.84	139.36	I
13	原 秀夫	(三水會)	規定飛	13.68	9.86	6.46	11.20	12.24	(53.44)	(4)
			選擇飛	16.38	14.70	13.68	15.60	15.60	129.40	II
棄權	3. 中島 春義	(横濱D.C.)	6. 井上文治	(大阪ナタシオン俱)	10. 北村久雄	(一木青年團)				

男子高飛込

競技順	姓名	所属	飛込	1	2	3	4	合計	順位
1	上山 隆	(横濱D.C.)	規定飛	5.94	4.08	6.12	0	(16.14)	(9)
			選擇飛	2.40	5.20	5.46	7.68	36.88	9
2	奥平 俊二	(三水會)	規定飛	7.70	9.60	14.40	12.92	(44.62)	(1)
			選擇飛	10.20	12.96	12.92	9.88	90.58	III
3	原 秀夫	(三水會)	規定飛	7.92	8.40	14.04	13.36	(44.04)	(2)
			選擇飛	12.24	11.20	12.32	12.32	92.12	I
4	岩切 盛行	(明大)	規定飛	6.82	7.92	13.32	12.54	(40.60)	(4)

			選擇飛	14.44	13.26	12.16	10.80	91.26	II
5	牧野康成	(横濱D.C.)	規定飛	6.82	6.00	6.48	8.74	(28.04)	(8)
			選擇飛	6.40	5.70	7.20	3.42	50.76	8
6	三谷晃	(大阪ジャンピング俱)	規定飛	6.38	6.00	9.00	9.50	(30.88)	(7)
			選擇飛	9.28	7.14	9.12	7.60	64.02	7
7	末次保	(東京D.C.)	規定飛	7.04	6.72	12.24	14.82	(40.82)	(3)
			選擇飛	10.80	1.02	7.60	12.92	83.16	4
8	水谷泰夫	(立教O.B.)	規定飛	7.48	8.16	11.52	6.08	(33.24)	(5)
			選擇飛	14.08	13.36	8.80	12.88	82.64	5
9	永松武	(F. D. C.)	規定飛	7.26	6.96	6.84	10.64	(31.70)	(6)
			選擇飛	9.18	8.64	7.04	11.02	67.58	6
10	井上久治	(大阪ナタシオン俱)	は棄権。						

女子飛板飛込

競技順	姓名	所屬	飛込	1	2	3	合計	順位
1	香野夫佐子	(甲子園室内)	規定飛	9.72	10.54	14.82	(35.08)	(2)
			選擇飛	13.68	8.32	8.00	65.08	II
2	大澤政代	(F. D. C.)	規定飛	10.80	11.22	14.82	(36.84)	(1)
			選擇飛	14.04	11.02	12.80	74.70	I

女子高飛込

競技順	姓名	所屬	1	2	3	4	合計	順位
1	林悦子	(九段精華)	5.50	8.80	7.68	8.12	30.10	III
2	山路明子	(無所屬)	5.06	7.70	6.24	6.44	25.44	5
3	大澤政代	(F. D. C.)	7.48	6.38	5.52	5.60	24.98	6
4	大澤禮子	(F. D. C.)	5.94	7.92	6.72	6.16	26.74	4
5	香野夫佐子	(甲子園室内)	7.48	7.26	7.20	9.80	31.74	II
6	島崎恵美子	(無所屬)	6.60	6.82	9.36	10.64	33.42	I

(35頁世界情報のつづき)

六、ダイデルスの活躍

獨逸自由形の第一人者ダイデルスは7月19日バルムの50米プールで舉行された競技會で下の獨逸新記録を出した。

300米	11:00.8
1000米	13:55.4
1500米	20:55.8

七、五百米自由形の世界記録

米國シアトル市のジャック・メヂカ(十八年)は本年三月四百四十碼自由型に四分四二秒四の世界記録を作つて以來スランプに陥つてゐるが室内シーズンの最後に二十五碼競泳池に於て五百米自由型の世

界記録作成を企て、見事之に成功したのみならず途中五百碼に於ても世界記録を突破して新記録を作つた。新記録は五百碼五分二六秒六、五百米五分五八秒〇。前記録は五百碼五分三一秒四アルネボリー(瑞典)の公認世界記録の外に本年四月フラナガン(米)がメヂカと電話競泳の際作つた未公認新記録五分二九秒〇があるが兩者共に破つてゐる。五百米の方は六分〇一秒二タリス(佛)

途中時間	100碼	0:56.0
	200碼	2:02.0
	300碼	3:09.0
	400碼	?
	500碼	5:26.6
	500米	5:58.0

—了—

杉本傳、高石勝男、鶴田義行の三氏に對する

表 彰 文

昭和八年八月十四日、日本選手權大會競技場で三氏に對する表彰式が行はれた、當日末弘會長より朗讀された表彰文を茲に改てかゝけるめに致します。

これより日本水上競技聯盟代議員會の決議によりまして、我が水上競技界をして今日あらしむるについて多大の貢献をされた杉本傳君、高石勝男君、鶴田義行君、此三氏の功績を表彰する式を行ふに當りまして、三氏それぞれの功績従つて又吾々が特に此諸氏を表彰する理由について多少の説明をいたしたいと存じます。

杉本傳君は吾水上競技界に於ける最初のそして最も優れた指導者であります。其の功績の最大なるものは夙に衆に卒先してクロール泳法其他水上競技の新技術を研究し指導能く自ら高石君其他多數の優秀なる選手を養成したるのみならず、吾水上競技界一般に對して畫期的發展をなすべき最大の動機を與へ素地を作られたことであります。次に又氏は吾國に於て初めてプールを游泳の練習に利用するの利益を認めて之を實行された先覺者をりまして、之が吾國水泳競技の發展に資した功は偉大なものであります。尙杉本君が屢々選手監督として新しくオリンピック大會其他に赴かれ能く監督統卒の責任を果たされ選手をして十分の活躍を爲さしめた功績も亦没すべからざるものでありまして、實に氏は吾國水上競技界に於ける先覺者であり偉大な功勞者であります。

次に高石勝男君は吾國最初の世界的大選手であります、年少既に茨木中學生徒として嶄然其の頭角を現はし、爾來昨年に至るまで終始吾國競泳界の第一人者として内に外に實に花々しい戦績を残されたのであります。世界に向つて初めて茲に水泳國日本ありとの認識を與へたものも當時の少年高石であり、爾來ワイスミューラー其他世界的大選手と角逐して克く戦ひ我國水上競技界をして終に先進諸強の列に加はることを得しめた端を開いたものも亦高石君であります。實に高石君は十數年の長年に亘り吾國水上競技界の明星として外に對しては花々しく水泳日本を代表し内にあつては亦多數後進者の儀表として彼等の努力精進の目標となり以て吾水上競技一般のレベルを今日の程度まで引き上げることに貢献された功勞者であります。

終に鶴田義行君は嘗て平泳が吾國競泳界最大の弱點であつてこれが爲め屢々外侮を蒙つて吾々一同焦慮措く能はざりし時に當り突如海軍より身を起して天賦の鋭鋒を現して、爾來不斷の努力を以て斯技の練習に精進し、終に一九二八年アムステルダムに開催されたオリンピック大會に優勝し初めて我が榮ある日章旗を高くオリンピック會場の空に掲揚せしめたのみならず、更に昨年ロサンジュレスのオリンピック大會に於ても引續き其の選手權を保持し、世界水上競技界實に稀に見る連續優勝の榮譽を荷負はれたのでありまして、其戦績實に驚異に値すべきものがあります。今や氏が已に劣らざる立派な後繼者小池禮三君を残して競技界を引退するに際し、其の過去永年に亘る功績の顯著なるを追懷いたしまして心より敬意を表する次第であります。

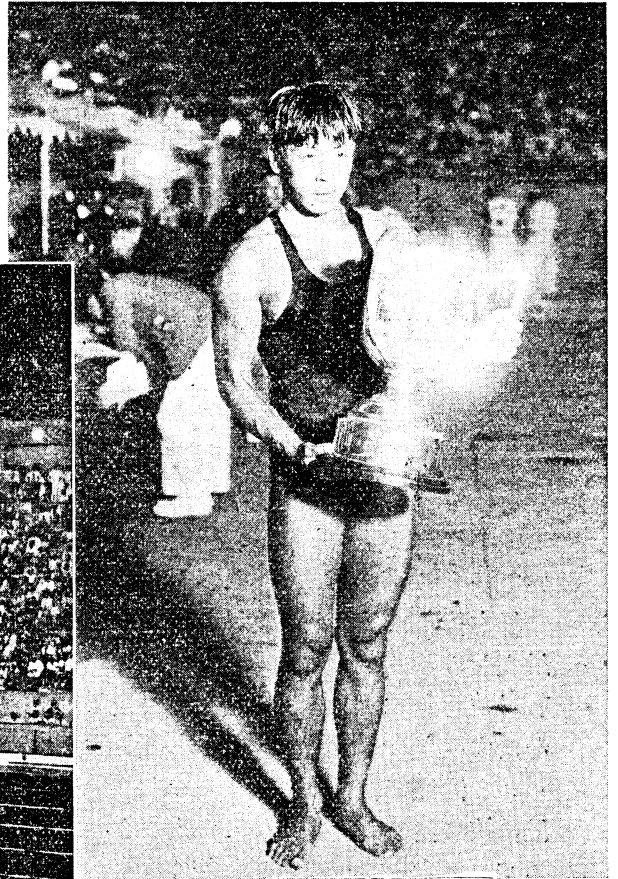
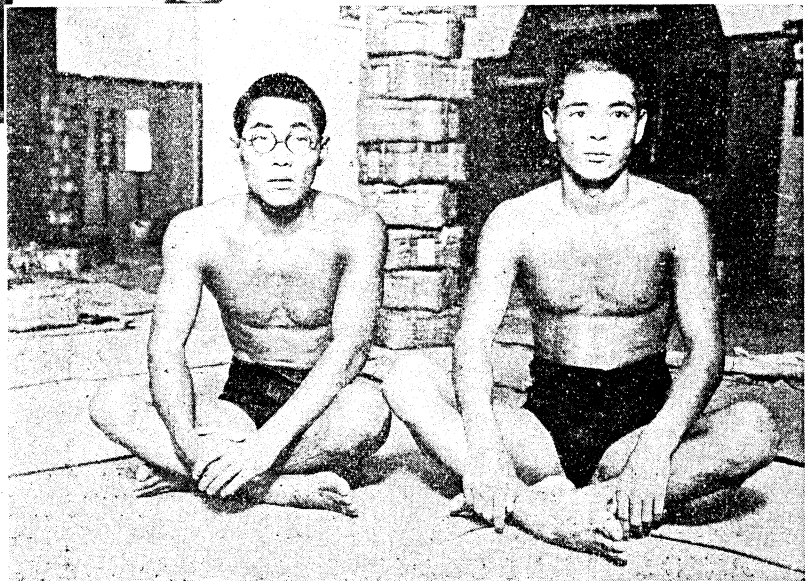
尙本聯盟は之の際に於て特に高石、鶴田兩君の功績を記念し併せて後進者に刺戟を與へる目的を以つて百米自由形賞、及び二百米平泳賞を製作し今後之を年々夫等の種目に於ける優勝者に授ける事と致しましたから特に此の事を報告いたします。

大會グラフ



會場情景

脱衣室にて千五百米の
牧野、北村 兩君



遊佐 正憲君 (日本大學)

殊勳の人々

昭和八年 日本選手権大會地方豫選成績

北海道

北海道水上聯盟・小樽體協水上部主催

札幌中島プール(25) 7月23日 氣26° 水21°

100自	1. 米谷喜一郎 (函館聯盟) 1:06.1
	2. 木村光一郎 (函館聯盟) 1:07.8
	3. 藤井晴雄 (函館聯盟) 1:11.8
200自	1. 木村光一郎 (函館聯盟) 2:31.7
	2. 小須田 朗 (札商俱) 2:45.7
	3. 藤井晴雄 (函館聯盟) 2:50.6
400自	1. 古谷義明 (函館聯盟) 5:56.0
	2. 長島武二 (函館聯盟) 5:59.1
	3. 小須田 朗 (札商俱) 6:11.2
1500自	1. 坪内 謹 (札商俱) 23:01.2
	2. 古谷義明 (函館聯盟) 23:43.0
	3. 長島武二 (函館聯盟) 23:45.6
100背	1. 米谷喜一郎 (函館聯盟) 1:19.1
	2. 名雲 賢 (綠水會) 1:22.2
	3. 沖田龍一 (室蘭水協) 1:27.7
200背	1. 赤塚英雄 (函館聯盟) 2:50.2
	2. 名雲 賢 (綠水會) 3:04.3
	3. 沖田龍一 (室蘭氣協) 3:13.0
100平	1. 筒井八男治 (函館聯盟) 1:19.7
	2. 安孫子三郎 (札幌一中) 1:24.3
	3. 永澤 良 (北海道中)
200平	1. 筒井八男治 (函館聯盟) 2:58.6
	2. 安孫子三郎 (札幌一中) 3:05.6
	3. 谷黒正二 (綠泳會) 3:15.2
800リレー	
	1. 函館聯盟A (木村、長島、古谷、米谷) 10:48.0
	2. 函館聯盟B (鈴木、赤塚、筒井、藤井) 11:27.4
	3. 札商俱 (由月、安保、小須田、坪内) 11:35.0

東京

關東水泳協會主催 明治神宮プール(50) 7月29日 氣29.5° 水27°

男子競泳

100自	1. 高橋成夫 (稻泳會) 60.2
	2. 鶴岡 榮 (聖ボール) 1:05.8
	3. 山川重之助 (三水會) 1:06.0
200自	1. 横山隆志 (稻泳會) 2:19.4
	2. 根上 博 (聖ボール) 2:20.2

3. 田野耕清 (聖ボール) 2:28.2	
400自	1. 横山隆志 (稻泳會) 5:02.4
	2. 本多惣一郎 (聖ボール) 5:03.8
	3. 根上 博 (聖ボール) 5:08.4
1500自	1. 本多惣一郎 (聖ボール) 20:25.8
	2. 池田龍彦 (慶普) 23:08.0
	3. 青木彌太郎 (聖ボール) 23:25.4
100背	1. 清政武夫 (稻泳會) 1:15.6
	2. 秋吉龍二 (日大三中) 1:16.2
	3. 根來幸成 (三水會) 1:17.8
200背	1. 清政武夫 (稻泳會) 2:46.2
	2. 根來幸成 (三水會) 2:50.4
	3. 秋吉龍二 (日大三中) 2:51.6
100平	1. 長谷川鏡二 (稻泳會) 1:24.2
	2. 武田五郎 1:25.2
	3. 後藤勝造 (慶應普) 1:26.4
200平	1. 長谷川鏡二 (稻泳會) 3:11.8
	2. 海津良三郎 (聖ボール) 3:14.8
	3. 山本顯揚 (慶應普) 3:18.2
800リレー	1. 聖ボール俱樂部 9:53.2
	鶴岡、田野、根上、本田)

女子競泳

100自	1. 大木櫻子 (府立第六) 1:26.4
	2. 河端幸江子 1:28.6
	3. 戸所幸恵 1:29.4
200自	1. 府中美津子 3:09.6
	2. 西尾美恵子 3:19.8
	3. 西村二三子(武蔵野女學院) 3:30.6
100背	1. 大木櫻子 (府立第六) 1:42.6
	2. 永井千鶴子 1:50.2
	3. 河端幸江子 1:58.2
200平	1. 山東初子 (東洋英和) 3:46.0
	2. 齊藤房江 3:48.8
	3. 渡邊常子 (府立第六) 3:51.6
400リレー	1. 東京府立第四高女 6:17.6
	(西尾、戸所、三岡、見田)

飛込

男子飛板	1. 柴原恒雄 (日大三中) 132.46
	2. 原 秀夫 (三水會) 130.64
	3. 原 酉三 (三水會) 124.22

	4. 杉原 雪夫 (慶 大)	115.16
	5. 石川 金繼 (明 大)	100.93
	6. 岩切 盛行 (明 大)	100.92
男子高飛込	1. 原 秀夫 (三水會)	94.84
	2. 奥平 俊二 (三水會)	88.46
	3. 岩切 盛行 (明 大)	84.70
	4. 水谷 泰夫 (立教O.B.)	81.12
	5. 末次 保 (T. D. C.)	73.16
	6. 永松 武 (F. O. C.)	64.92
女子飛板	1. 大澤 政代 (F. F. C.)	70.
女子高飛込	1. 大澤 禮子 (美津濃)	33.00
	2. 林 悦子 (九段精華)	31.40
	3. 大澤 政代 (F. D. C.)	29.46
	4. 山路 明子	25.98

千葉

千葉水上競技聯盟主催 千葉中學プール(50) 7月23 日氣32° 水27°

男子競泳

100自	1. 紅谷 進一 (千葉中學)	1:10.8
	2. 仲本 光彦 (千葉中學)	
	3. 長谷川 辯志 (木更津青)	
200自	1. 小川 晃 (早稻田中)	2:36.3
	2. 田中 滋二 (銚子商業)	
	3. 奥島 邦雄 (早稻田中)	
400自	1. 田中 一男 (稻泳會)	5:14.4
	2. 永見 達明 (稻泳會)	
	3. 奥島 邦雄 (早稻田中)	
1500自	1. 永見 達明 (稻泳會)	21:22.5
	2. 田中 一男 (稻泳會)	
	3. 田中 滋二 (銚子商業)	
100背	1. 北原 直武 (早稻田中)	1:24.7
	2. 佐藤 茂彦 (早稻田中)	
	3. 紅谷 進一 (千葉中學)	
200背	1. 佐藤 茂彦 (早稻田中)	3:04.8
	2. 北原 直武 (早稻田中)	
	3. 寺崎 毅 (千葉中學)	
100平	1. 安藤 久男 (長生俱)	1:24.2
	2. 松村 義誠 (千葉中學)	
	3. 鈴木 茂太郎 (君津青年)	
200平	1. 安藤 久男 (長生俱)	3:09.8
	2. 松村 義誠 (千葉中學)	
	3. 越川 壽 (早稻田中)	
800リレー	1. 早稻田中學	11:19.4
	(奥島、永見、佐藤、小川)	

女子競泳

100自	1. 山本 瑞穂 (安房高女)	1:49.0
	2. 萩 原	

	3. 武 内 (安房高女)	
200平	1. 島田 文子 (安房高女)	4:30.0
	2. 加藤 静子 (安房高女)	

400リレー

1. 安房高女(山本、武内、萩原、吉田) 8:36.0

横濱

横濱水泳協會主催 横濱市立水泳場(50) 7月29日 氣27° 水25°

男子競泳

100自	1. 遊佐 正憲 (日本大學)	58.8
	2. 豊田 久吉 (日本大學)	1:01.8
	3. 富樫 誠助 (法政大學)	1:04.0
200自	1. 遊佐 正憲 (日本大學)	2:13.8
	2. 豊田 久吉 (日本大學)	2:23.4
	3. 杉本 盛 (日本大學)	2:24.6
400自	1. 杉本 盛 (日本大學)	5:07.6
	2. 澤田 成信 (三浦中學)	5:34.2
	3. 中田 猛 (福井高工)	5:35.8
1500自	1. 西田 三郎 (横濱水協)	22:16.6
	2. 中田 猛 (福井高工)	22:39.2
	3. 鈴木 二郎 (横濱水協)	23:22.8
100背	1. 秋吉 十九夫 (日大三中)	1:14.6
	2. 大島 正夫 (横濱水協)	1:17.0
	3. 坏 信義 (神奈川商工)	1:17.8
200背	1. 秋吉 十九夫 (日大三中)	2:49.0
	2. 坏 信義 (神奈川商工)	2:56.4
	3. 城田 秀雄 (神奈川二中)	3:00.0
100平	1. 岡田 達男 (日本大學)	1:23.0
	2. 川島 諒介 (神奈川商工)	1:26.4
	3. 森田 正典 (關東學院)	1:31.4
200平	1. 長谷川 鏡次 (稻泳會)	3:06.0
	2. 岡田 達男 (日本大學)	3:07.6
	3. 川島 諒介 (神奈川商工)	3:11.4

800リレー

1. 横濱水協 (服部、鈴木、西田、須崎) 10:22.0
2. 神奈川商工(池田、坏、高木、荒井) 11:57.8

女子競泳

100自	1. 須藤 光代 (横濱一女)	1:22.6
	2. 増山 ちせ (平塚高女)	1:23.4
	3. 吉田 絹恵 (平塚高女)	1:29.4
200自	1. 河村 静子 (横濱一女)	3:05.4
	2. 須藤 光代 (横濱一女)	3:06.4
	3. 増山 ちせ (平塚高女)	3:14.6
400自	1. 河村 静子 (横濱一女)	6:34.8
	2. 須藤 菊代 (横濱水協)	8:36.6
100背	1. 俣野 ユキ子 (横須賀女)	1:50.8
	2. 藤田 芳子 (横濱一女)	1:52.0

3. 今井 富美子 (横須賀女) 2:01.6
 200平 1. 柳下 治子 (横須賀女) 3:52.6
 2. 盛多 賀子 (平塚高女) 3:53.2
 3. 高橋 理惠 (横須賀女) 4:09.4

400リレー

1. 平塚高女(吉田、石川、佐々木、増山) 6:16.8
 2. 横須賀女(高橋、俣野、西下、山崎) 6:34.2

飛込

男子飛板

1. 中島 春義 (横濱) 89.32
 2. 吉本 茂 (日本大學) 83.64
 3. 小倉昭一郎 (横濱) 71.00

男子高飛込

1. 外山 隆 (横濱) 46.42
 2. 牧野 康成 (横濱) 42.74

水球	横濱外人	三田水泳會
	T. Down	F. W. { 和田 幸一 山内 哲 柏原 三郎
	W. Laffin	
	G. Figgers	
	F. Schimer	H. B. 大前 寛
	H. Fachatman	F. B. { 渡邊 一郎 内海 通勝
	H. Schoene	
	M. Fachtman	G. K. 高橋 三郎
	4	前半 1
	6	後半 1
	10	合計 2

静浦

静浦游泳協會主催 江ノ浦水泳池
 (50) 7月29日 氣31° 水24°

7月30日 氣29°5 水23°

男子競泳

- 100自 1. 細谷 完一 (隅田俱) 1:05.0
 2. 坂倉 晴 (静浦青) 1:05.6
 3. 小早川三五郎 (静浦青) 1:06.8
 200自 1. 坂倉 晴 (静浦青) 2:36.2
 2. 中島 清作 (静浦青) 2:43.6
 3. 小松 正雄 (静浦青) 3:01.0
 400自 1. 竹内 常郎 (沼商俱) 5:35.8
 2. 新谷 孝雄 (隅田俱) 5:36.0
 3. 渡邊 保久 (静浦青) 5:53.8
 100背 1. 細谷 定一 (隅田俱) 1:19.2
 2. 小早川三五郎 (静浦青) 1:21.0
 3. 大瀧 光夫 (隅田俱) 1:24.2
 200背 1. 水谷 卯三郎 (東京商大) 2:54.0
 2. 八木橋 親亞 (沼商俱) 3:02.0
 3. 大瀧 光夫 (隅田俱) 3:02.6
 100平 1. 小池 禮三 (沼商俱) 1:16.8

2. 柳澤 榮三郎 (法政俱) 1:26.6
 3. 眞部 竹二郎 (静浦青) 1:27.8
 200平 1. 小池 禮三 (沼商俱) 2:50.4
 2. 柳澤 榮三郎 (法政俱) 2:57.4
 3. 眞部 竹次郎 (静浦青) 3:06.8

800リレー

1. 静浦 青年 10:26.4
 2. 沼商俱樂部 11:06.4

水球

静岡中學	静浦
野澤 高常	F. W. { 水谷卯三郎 有吉正太郎 大澤 忠雄
近藤 進	
森 好雄	
志波 義明	H. B. 丹下 良一
松下 篤爾	F. B. { 川口 又男 伊澤喜之助
田中 清作	
山田 拓平	G. K. 染谷 要
1	前半 5
1	後半 4
2	合計 9

濱名灣

濱名灣游泳協會主催 濱松東小學プ
 ール(25) 7月30日 氣30° 水26°

- 100自 1. 宮崎 康二 (濱松一中) 60.0
 200自 1. 宮崎 康二 (濱松一中) 2:24.0
 400自 1. 牧野 正藏 (稻泳會) 4:51.4
 1500自 1. 牧野 正藏 (稻泳會) 19:50.6
 100平 1. 前田 倍三 (稻泳會) 1:21.2
 2. 山下 正果 (濱松一中) 1:25.6
 200平 1. 前田 倍三 (稻泳會) 2:55.6

名古屋

名古屋體育協會主催 名古屋市振甫
 プール(50) 7月29日 氣24°9 水26°

男子競泳

- 100自 1. 志村 義久 (稻泳會) 1:03.9
 2. 近藤 甚吉 (名水協) 1:06.8
 3. 安藤 勇二 (岐阜商業) 1:08.2
 200自 1. 志村 義久 (稻泳會) 2:28.8
 2. 安藤 勇二 (岐阜商業) 2:32.0
 3. 近藤 甚吉 (名水協) 2:35.0
 400自 1. 堀 勝美 (岐阜商業) 5:17.2
 2. 上野 清 (岐阜商業) 5:32.3
 3. 小野 秀郎 (岐阜商業) 5:35.0
 1500自 1. 堀 勝美 (岐阜商業) 21:26.5
 2. 上野 清 (岐阜商業) 22:00.2
 3. 小野 秀郎 (岐阜商業) 22:18.0
 100背 1. 山田 薫 (大垣商業) 1:16.2
 2. 山田 鋼 (岐阜商業) 1:18.2
 3. 杉浦 光信 (勝川俱) 1:22.2

- 200背 1. 山田 薫 (大垣商業) 2:49.0
 2. 山田 鋼 (岐阜商業) 2:50.2
 3. 後藤 彌喜知 (岐阜商業) 3:05.2

- 100平 1. 中川 重雄 (振甫俱) 1:21.4
 2. 栗本 巖 (一宮中學) 1:25.8
 3. 宮田 弘志 (名水協) 1:26.8

- 200平 1. 中川 重雄 (振甫中) 2:57.5
 2. 栗本 巖 (一宮中學) 2:58.6
 3. 宮田 弘志 (名水協) 3:14.0

800リレー

1. 岐阜商業(安藤、加藤、上野、堀) 10:24.4

女子競泳

- 100自 1. 小島 一枝 (椋山女) 1:15.0
 2. 鹽見 梅子 (椋山女) 1:17.4
 3. 渡邊 こまつ (愛知淑徳) 1:19.0

- 200自 1. 小島 一枝 (椋山女) 2:45.0
 2. 鹽見 梅子 (椋山女) 2:57.0
 3. 渡邊 こまつ (愛知淑徳) 3:02.0

- 400自 1. 北島 静子 (椋山女) 6:47.2
 2. 木全 美佐子 (愛知淑徳) 6:56.0
 3. 大倉 篤子 (愛知縣一) 7:07.8

- 100背 1. 小木曾 治子 (愛知淑徳) 1:34.5
 2. 高野 菊枝 (愛知淑徳) 1:35.2
 3. 吉田 文子 (縣立一女) 1:36.4

- 200平 1. 前畑 秀子 (椋山女) 3:01.4
 2. 淺井 品子 (縣立一女) 3:28.6
 3. 今井 道子 (椋山女) 3:31.2

400リレー

1. 椋山女(鹽見、前畑、水野、小島) 5:23.4
 2. 淑徳(小木曾、時田、森、渡邊) 5:39.2
 3. 縣一女(春日井、小川、大西、大倉) 6:34.8

男子飛板飛込

1. 片山 信 (名古屋醫大) 82.92

男子高飛込

1. 片山 信 (名古屋醫大) 63.02

水球 名古屋水協 A 名古屋水協 B

服部 正一	F. W.	近藤 甚吉
大澤 泰雄		河原美代志
安藤 安清		菊田美代志
渡邊 藤一	H. B.	中野 秀雄
宮田 弘志	F. B.	酒井 一雄
古橋 秀雄		舟橋 弘
荒川 政光	G. K.	宮澤 政夫

2	前半	0
0	後半	0
2	合計	0

三重

三重水泳協會、津市體育會、伊勢新聞社主催 三重高農プール(25)

8月1日 氣30°5 水25°5

男子競泳

- 100自 1. 梅田 利兵衛 (東京高師) 1:00.2(新)
 2. 吉川 明 (富田中) 1:10.4
 3. 山際 傳 (志摩水産) 1:10.9

- 200自 1. 梅田 利兵衛 (東京高師) 2:22.4(新)
 2. 藤田 貞明 (四日市商) 2:41.0
 3. 吉川 明 (富田中學) 2:50.3

- 400自 1. 中山 重正 (桑名中學) 5:50.1
 2. 三井 菊三郎 (津中學) 5:55.0
 3. 井野 彌三雄 (上野中學) 6:01.1

- 100背 1. 中西 長兵衛 (四日市商) 1:18.5(新)
 2. 阿部 克己 (四日市商) 1:26.2
 3. 加藤 三好 (津中學) 1:29.0

- 200平 1. 吉田 二郎 (四日市商) 3:14.9
 2. 稻森 亮一 (桑名中學) 3:21.0
 3. 武岡 吉平 (津中學) 3:21.3

800米リレー

1. 桑中(松本、水谷、服部、中山) 11:12.3(新)
 2. 津中(池山、小澤、白井、三井) 11:15.0(新)
 3. 四商(伊藤、阿部、中西、藤岡) 11:51.2

女子競泳

- 100自 1. 山崎 キヨ (縣立津女) 1:40.3(新)
 2. 内山 郁子 (四日市女) 1:48.8(新)
 3. 鈴木 静子 (市立津女) 1:50.0(新)

- 200平 1. 坂口 てる (市立津女) 3:55.5
 2. 高柳 國子 (田丸水練) 3:57.2
 3. 松本 橘枝 (市立津女) 4:01.8

大阪

大阪體育協會主催 大阪市立プール(50) 7月30日 氣25.5° 水29.5°

男子競泳

- 100自 1. 坂上 安太郎 (稻泳會) 60.8
 2. 竹村 公良 (稻泳會) 1:03.5
 3. 木下 善一 (ナタシオン) 1:04.8

- 200自 1. 坂上 安太郎 (稻泳會) 2:22.0
 2. 入江 正男 (弦泳會) 2:34.0
 3. 山本 文尙 (京都二商) 2:34.8

- 400自 1. 山尾 大吉 (關西大學) 5:38.8
 2. 木下 善一 (ナタシオン) 5:55.0
 3. 濱口 登 (丸善) 5:55.4

- 100自 1. 寺崎 一夫 (京都二商) 21:05.4
 2. 抱 勝 (茨木中學) 21:36.6
 3. 簸内 弘 (茨木中學) 22:33.0

- 100背 1. 入江 稔夫 (稻泳會) 1:15.0

2. 田所 嘉宜 (茨木中學) 1:22.6
 3. 岩崎 義男 (二見會) 1:23.6
 200背 1. 入江 稔夫 (稻泳會) 2:44.8
 2. 田所 嘉宜 (茨木中學) 2:58.2
 3. 岩崎 義男 (二見會) 2:58.4
 100平 1. 高島 秋介 (甲陽中學) 1:21.6
 2. 三國 太郎 (弦泳會) 1:22.2
 3. 前田 龍馬 (天王寺商) 1:23.6
 200平 1. 高島 秋介 (甲陽中學) 2:55.2
 2. 前田 龍馬 (天王寺商) 2:59.4
 3. 三國 太郎 (弦泳會) 2:59.6
 800リレー 1. 關 大
 (佐藤、泉、山尾(經)山尾(大)) 10:22.4
 2. 茨中 庄田、田所、籓内、抱) 10:34.6
 3. 二見會(西海、小濱、夜久、向井) 10:50.0

女子競泳

- 100自 1. 高木 久代 (濱 寺) 1:37.4
 2. 小野 トシ子 (濱 寺)
 200自 1. 山尾 未子 (濱 寺) 3:26.6
 2. 青山 芙貴子 (金蘭高女) 3:33.4
 400自 1. 山尾 未子 (濱 寺) 7:33.0
 2. 青山 芙貴子 (金蘭高女) 7:34.4
 3. 田中 シズ子 (濱 寺) 7:45.0
 1500自 1. 守岡 初子 (茨木水泳)²⁴:08.6(日新)
 1000米正式時間 15:57.0 (日新)
 2. 田中 シズ子 (濱 寺) 32:20.4
 100背 1. 守岡 初子 (茨木水泳) 1:33.6
 2. 小村 鞠子 (濱 寺) 1:52.2
 200平 1. 瀧石 シゲ子 (瀧 寺) 4:05.8
 400リレー
 1. 濱寺(小林、小野、高木、山尾) 6:38.2

和歌山

和歌山縣體育協會主催 和歌山商業
 プール(25) 7月30日

- 100自 1. 松岡 繁夫 (三田水) 1:05.2
 2. 岡本 一男 (和歌山中) 1:08.6
 3. 波戸 敏郎 (和歌山中) 1:11.5
 200自 1. 松岡 繁夫 (三田水) 2:31.8
 2. 岡田 一男 (和歌山中) 2:32.8
 3. 兒玉 高一 (弦泳會) 2:32.9
 400自 1. 前川 重樹 (三田水) 5:10.0
 2. 島本 信美 (和歌山商) 5:10.2
 3. 兒島 高一 (弦泳會) 5:31.9
 1500自 1. 島本 信美 (和歌山商) 21:18.8
 2. 前川 重樹 (三田水) 22:16.8
 3. 田村 勇 (和歌山中) 22:29.2
 100背 1. 井上 贊二郎 (三田水) 1:13.6

2. 森 重雄 (和歌山市) 1:17.2
 3. 今井 源 (和歌山中) 1:18.2
 200背 1. 井上 贊二郎 (三田水) 2:44.0
 2. 森 重雄 (和歌山市) 2:46.4
 3. 今井 源 (和歌山中) 2:48.3
 100平 1. 瀨良 陽介 (和歌山中) 1:21.2
 2. 川崎 己代男 (和歌山商) 3:09.4
 3. 上野山 治夫 (耐久中學) 3:18.6
 200平 1. 瀨良 陽介 (和歌山中) 2:51.0
 2. 川崎 己代男 (和歌山商) 3:09.4
 3. 上野山 治夫 (耐久中學) 3:18.6
 800リレー 1. 和歌山中學

(岡本、田村、波戸、今井) 10:36.0

石川

石川縣體育協會主催 松任プール
 (50) 7月30日 氣30° 水27°

男子競泳

- 100自 1. 水野 亮 (北陸水泳) 1:06.0
 2. 酒井 治雄 (北陸水泳)
 3. 棒田 利夫 (金澤商業)
 200自 1. 酒井 治雄 (北陸水泳) 2:43.5
 2. 水野 亮 (北陸水泳)
 3. 四谷 喜孝 (金澤商業)
 400自 1. 河合 辰雄 (北陸水泳) 5:45.5
 2. 安田 久治郎 (小濱商業)
 3. 四谷 喜孝 (金澤商業)
 1500自 1. 河合 辰雄 (北陸水泳) 23:29.9
 2. 牛村 宏 (櫻 水)
 100背 1. 明文 一 (小濱商業) 1:16.4
 2. 森田 收平 (櫻 水)
 3. 徳田 文雄 (松任農業)
 200背 1. 明文 一 (小濱商業) 2:46.5
 2. 森田 收平 (弦泳會)
 3. 徳田 文雄 (松任農業)
 100平 1. 大崎 卯藤久 (弦水會) :19.8
 2. 坂江 由夫 (北陸水泳)
 3. 松任 公男 (小濱商業)
 200平 1. 大崎 卯藤久 (弦泳會) 2:53.1
 2. 松任 公男 (小濱商業)
 3. 酒井 義雄 (北陸水泳)
 800リレー 1. 北陸水泳(水野、池田、河合、酒井) 10:56.4
 2. 金澤商業(棒田、四谷、中村、伊藤)

女子競泳

- 200自 1. 吉本 一子 (松任高女) 3:14.4
 400自 2. 吉本 一子 (松任高女) 7:04.7
 2. 鶴崎 芳子 (小高女)
 200平 1. 大喜 富子 (小高女) 4:04.0

2. 中村 秀子 (小高女)

廣 島

廣島縣教育會主催 廣島一中プール
(25) 7月20日 氣34.2

- 100自 1. 藤井 平一 1:09.2
2. 由波 誠二 1:30.7
3. 高岸 孝一 1:42.4
- 100背 1. 渡邊 卓一 (三田水泳會) 1:18.4
- 200背 1. 渡邊 卓一 (三田水泳會) 2:54.2
- 100平 1. 山田 弘 (稻泳會) 1:24.3
2. 由波 誠二 1:39.4
- 200平 1. 山田 弘 (稻泳會) 2:56.8

愛 媛

愛媛縣體育協會 同縣教育會體育部
門主催 道後グラウンドプール(50)

6月25日 氣18° 水14°

- 100自 1. 小池 政雄 (松山市) 1:06.2
2. 兒島 二夫 (松正高商)
3. 關谷 幸之介 (松山中學)
- 200自 1. 田中 正倫 (松山高商) 2:36.8
2. 大藤 正己 (松山商業) 2:37.1
3. 白石 太郎 (北 中)
- 400自 1. 兒玉 太郎 (北 中) 5:42.2
2. 野村 喬 (松山師範)
3. 北矢 保正 (松山中學)
- 100背 1. 石田 直四郎 (今治中) 1:19.2
2. 門屋 桂 (北 中) 1:21.5
3. 門屋 滿 (高 商) 1:22.2
- 200平 1. 伊藤 汪 (松山高校) 3:08.7
2. 竹形 茂 (今治商)
3. 金子 藤剛 (松山高校)
- 300リレー 1. 高商(田中、河本、松田、渡邊) 10:35.8
2. 松商(遠藤、築地、福島、大藤) 11:16.2
3. 松中(北矢、關谷、奥嶋、三好) 11:42.6

福 岡

福岡水泳協會主催 九州帝大プール
(25) 7月28日

男子競泳

- 100自 1. 中村 強輔 (日本大學) 1:03.6
2. 正木 敬造 (修猷館中) 1:04.4
3. 加藤 芳雄 (修猷館中) 1:08.2
- 200自 1. 中村 強輔 (日本大學) 2:23.4
2. 森原 幸彦 (修猷館中) 2:25.4
3. 中村 智光 (八幡中學) 2:37.2
- 400自 1. 森原 幸彦 (修猷館中) 5:27.2
2. 金子 豊 (修猷館中) 5:32.0
3. 栗原 徹 (修猷館中) 5:45.4
- 1500自 1. 武内 至 (傳習館中) 21:15.6
2. 金子 豊 (修猷館中) 22:00.6

3. 栗原 徹 (修猷館中) 23:14.4

- 100背 1. 角野 二郎 (弦泳會) 1:13.0
2. 勝久 重隆 (稻泳會) 1:14.0
3. 山本 茂樹 (八 幡) 1:17.2
- 200背 1. 角野 二郎 (弦泳會) 2:40.0
2. 勝久 重隆 (稻泳會) 2:41.6
3. 上野 大藏 (朝中O.B.) 2:50.2
- 100平 1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 1:17.2
2. 芳賀 忠房 (八 幡) 1:19.8
3. 古莊 次平 (稻泳會)
- 200平 1. 葉室 鐵夫 (修猷館中) 2:50.6
2. 古莊 次平 (稻泳會) 2:54.4
3. 芳賀 忠房 (八 幡) 3:01.6

- 800リレー 1. 修猷 A(森原、下村、金子、加藤) 10:46.0
2. 修猷 B(持永、橋口、高野、栗原) 11:10.4

女子競泳

- 100自 1. 田尻 テル (熊本花園小) 1:25.0
2. 古賀 佳子 (久留米女) 1:26.6
3. 川野 フメ (筑紫高女) 1:29.2
- 200自 1. 古閑 久子 (熊本中央女) 3:08.0
2. 猿渡 ツネヨ (久留米女) 3:19.4
3. 後藤 末子 (熊本花園小) 3:24.2
- 400自 1. 古閑 久子 (熊本中央女) 6:41.2
2. 猿渡 ツネヨ (久留米女) 6:58.6
3. 久野 安佐子 (筑紫高女) 7:04.8
- 100背 1. 正木 トシ (筑紫高女) 1:37.4
2. 河原 ヨシエ (久留米女) 1:43.0
3. 山田 愛子 (筑紫高女)
- 200平 1. 柳瀬 シズ (筑紫高女) 3:32.8
2. 弓削 トシエ (久留米女) 4:03.6
3. 池田 ミサ子 (久留米女)

- 400リレー 1. 久留米高女
(◇、金子、村田、古賀) 6:19.2

[NSR會報第40頁より續く]

K 競泳池公認規定改正の件 公認規定簡易化(福岡提出) 公認測量師増加に關する件(理事會) プール公認條件明細規定の件(三重) 公認五年毎の再公認手續の便宜法(三重提出) 公認プール以外のプールに於て新記録出來たる場合の處理法(理事會) 以上一括して専門委員及理事會附托となつた。

L 明治神宮體育大會水上競技に關する打合せ (三重提出) 郷土對抗リレーの資格、文部大臣トロフィーは文部省より都合悪しとの事、新人競技申込手續は各加盟團體よりする事、その他に就て打合せた。

以上



第七回東部中等學校水上競技大會

見付中學優勝

好記録出でず

編輯部

全國學生水上競技聯盟主催の第七回東部中等學校水上競技大會は八月十九・二十日兩日午後五時から明治神宮外苑プールで行はれた。この大會は東部中等學校の覇權を争ふのみならず一週間後に大阪に於て開かれる東西中等學校大會に出場する代表校並に代表選手を決定するものであり、關西と日を同じくして行はれたが、牧野、小池、新聞等の中等水泳界の超努級が上級學校に進んだのと、オリンピックチャンピオン宮崎康二君が病氣のために日本選手權大會以來昨年元氣なく、記録的に一沫の淋しさを見せたが、参加各校の選手は何れも純真なる中學スポーツマンの意氣を示し終始一貫緊張したレースを演じ年々に躍進をつづけつゝある中學水泳の元氣を如實に示した。

濱松一中と見付中學とは最後の八百米リレーに於て覇權を争つたが、宮崎の外が著しく劣つた濱松一中は遂に第六位におち、見付中學が優勝した。又昨年の優勝校中泉農學校は濱松一中と同點を以て第二位におちた。尙この外かつては日本水泳界に雄飛したがその後暫く衰退してゐた安房中學の擡頭が目覺しく總得點に於て第四位を得たのは賞讃に値する。

個人的に見れば宮崎康二君の百米・二百米自由形の優勝は戦前既に自他共に許す所であつたが、この外に四百米・八百米に覇權を握つた中泉農學校の中村君の奮闘はその記録と共に將來の活躍が期待される。又平泳の百米・二百米共に第一位を得て一人で十四點を獲得した函館中學の筒井君、背泳の日大三中秋吉君の活躍は見事であつた。

かくて背泳には多少の手薄はあるが見付中學校は東部の代表として關西の雄、修道中學と對戦する、又東西の聯合軍争覇の代表選手が選ばれた。

決勝記録

自由型

- 100米 1. 宮崎 康二 (濱一中) 60.4 大會新
 2. 新夫 茂夫 (濱蠶糸) 1:04.6
 3. 五十嵐伊市郎 (酒田商)
 4. 田端 三郎 (濱一中)

5. 岡部 泰萃 (福島中)
 6. 影島 理 (沼商)
- 200米 1. 宮崎 康二 (濱一中) 2:21.2 大會新
 2. 新井 茂夫 (濱蠶糸) 2:25.0
 3. 杉浦 重雄 (見付中) 2:25.4
 4. 田端 三郎 (濱一中) 2:26.0
 5. 五十嵐伊市郎 (酒田商)
 6. 渡邊 左京 (大多喜)
- 400米 1. 中村 豊太郎 (中泉農) 5:08.6
 2. 寺田 登 (見付中) 5:12.4
 3. 平野 茂 (安房中) 5:19.8
 4. 野澤 久良 (柏崎商) 5:20.6
 5. 平野 利三郎 (中泉農)
 6. 隈元 正賢 (日大中)
- 800米 1. 中村 豊太郎 (中泉農) 10:36.8
 2. 平野 茂 (安房中) 1:54.0
 3. 寺田 登 (見付中) 10:54.6
 4. 田中 滋二 (銚子商) 10:59.8
 5. 野澤 久良 (柏崎商)
 6. 平野 利三郎 (中泉農)
- 50米背泳 1. 坪 信義 (神奈川商工) 34.6
 2. 秋吉 龍二 (日大三中) 84.8
 3. 小川 年男 (茨城中) 35.0
 4. 豊田 武夫 (中泉農) 35.8
 5. 池田 邦武 (須崎中)
 6. 北原 直武 (早中)
- 100米背泳 1. 秋吉 龍二 (日大三中) 1:14.8
 2. 坪 信義 (神奈川商工) 1:17.2
 3. 小川 年男 (茨城中) 1:18.2
 4. 田中 滋二 (銚子商) 1:18.4
 5. 豊田 武雄 (中泉農)
 6. 鈴木 勳 (沼津商)
- 100米平泳 1. 筒井八男治 (函中) 1:20.8
 2. 西川 伸司 (沼津商) 1:21.6
 3. 加藤 孫平 (見付中) 1:22.6
 4. 高梨 朗 (見付中) 1:24.4
 5. 山口 正保 (明治商)

6. 山下 正果 (濱一中)
- 200米平泳 1. 筒井八男治 (函中) 2:56.4
 2. 西川 仲司 (沼津商) 2:59.2
 3. 高梨 朗 (見付中) 2:59.6
 4. 加藤 孫平 (見付中) 3:02.4
 5. 後藤 勝造 (慶應普)
 6. 安孫子三郎 (札一中)

200米リレー

1. 安房中 (村田、小高、藤平、平野) 1:56.8
 2. 濱松一中(田崎、宮崎政、牧野、宮崎康) 1:59.0
 3. 沼津商業 (野田、村上、渡邊、影島) 1:59.4
 4. 日大中學 (岩崎、大崎、隈元、篠塚) 2:00.4
 5. 見付中學 (杉浦、高梨、大石、寺田)
 6. 静岡中學 (田中、澤野、志波、森)

800米リレー

1. 見付中學 (寺田、伊藤、小野田、杉浦) 10:06.8
 2. 中泉農學 (平野、那須田、豊田、中村) 10:08.8
 3. 安房中學 (村田、小高、藤平、平野) 10:24.6
 4. 日大中學 (岩崎、大崎、篠塚、隈元) 10:26.4
 5. 沼津商業 (村上、野田、影島、渡邊)
 6. 濱松一中 (田端、宮崎政、牧野、宮崎康)

各校得点

優勝見付中學 36、2. 濱松一中、中泉農學校各 27、
 4. 安房中學 20、5. 沼津商業 18、6. 函館中學 14、
 7. 日大三中、神奈川商工 12、9. 濱松蠶糸 10、
 10. 茨城中學 8、11. 酒田商業、銚子商業 6、
 13. 柏崎商業 5、14. 日大中 4、15. 福島中學、
 慶應普通部、須崎中學、明治商業各 2、大多喜中
 學、札幌一中、早中、静岡中學各 1、

東部代表選手

1. 代表校 見付中學校(同校選手全部出場)

2. 東部代表選手

宮崎 康二(濱一中)	杉浦 重雄(見付中)
田端 三郎(濱一中)	中村豊太郎(中泉農)
寺田 登(見付中)	平野 茂(安房中)
筒井八男治(函中)	西川 仲司(沼津商)
高梨 朗(見付中)	加藤 孫平(見付中)
坪 信義(神奈川商工)	秋吉 龍三(日大三中)
小川 年男(茨城中)	田中 滋二(銚子商)
岡部 泰葦(福島中)	監督 根來 幸成
コーチ 武村 清	

西部中等學校水上競技大會

昭和八年八月十九、廿日、大阪築港プールにて

自由型

- 100米 1. 長谷川卯佐美 (修道中) 1:00.6(大會新)
 2. 前島 一郎 (高知商) 1:03.4
 3. 木村 忠雄 (尾道商) 1:04.4
 4. 林田 義人 (米子中)
 5. 平野 亮 (臺北一中)
 6. 八幡 熊治郎 (山口師)
- 200米 1. 長谷川卯佐美 (修道中) 2:21.0
 2. 木村 覺 (修道中) 2:23.0
 3. 林田 義人 (米子中) 2:24.0
 4. 明神 泰吉 (高知商)
 5. 平野 亮 (臺北一中)
 6. 木村 忠雄 (尾道商)
- 400米 1. 北村 久壽雄 (高知商) 5:02.4(大會新)
 2. 寺崎 一夫 (京二商) 5:05.4
 3. 横山 清一 (高知商) 5:06.0
 4. 島本 信美 (和歌商)
 5. 木村 覺 (修道中)
 6. 濱野 宗三 (臼杵中)

300米の正式記録は北村の 3:45.6

- 800米 1. 北村 久壽雄 (高知商) 10:33.2

2. 横山 清一 (高知商) 10:36.4
 3. 寺崎 一夫 (京二商) 10:38.8
 4. 島本 信美 (和歌商)
 5. 抱 勝 (茨木中)
 6. 武内 至 (傳習館)

北村の500米の正式記録は、6:36.4 豫選の記録は
 10:25.0 (大會新) である。

- 50米背泳 1. 山田 薫 (大垣商) 34.4
 2. 明 文一 (小松商) 34.4
 3. 河野 隼 (修道中) 34.6
 4. 山田 鋼 (岐阜商)
 5. 平賀 忠雄 (廣一中)
 6. 熊野 隆次 (廣一中)
- 100米背泳 1. 山田 薫 (大垣商) 1:15.4(大會新)
 2. 明 文一 (小松商) 1:15.4(大會新)
 3. 平賀 忠雄 (廣一中) 1:16.2
 4. 宮田 健次 (城東商)
 5. 河野 隼 (修道中)
 6. 兒島 泰彦 (修道中)
- 100米平泳 1. 葉室鐵夫 (修猷館中) 1:18.8(大會新)
 2. 長久 俊三 (修道中) 1:19.8(大會新)

3. 高島 秋介 (甲陽中) 1:21.0
 4. 野口 安造 (京一中)
 5. 田口 正之 (臺中二中)
 6. 菅野 義忠 (門司商)
- 200米平泳 1. 葉室鐵夫 (修猷館中) 2:52.4(大會新)
 2. 高島 秋介 (甲陽中) 2:52.4
 3. 田口正之 (臺中二中) 2:56.6
 4. 長久 俊三 (修道中)
 5. 瀬良 陽介 (和歌中)
 6. 大橋 一郎 (栗太農)
- 200米リレー 1. 高知商業(神原、前島、脇坂、北村)
 1:55.8 (大會新)
 2. 修道中學(木村、宮崎、河野、長谷川)

- 1:56.2 (大會新)
 3. 臺北一中(大塚、平野、田崎、高尾) 1:56.6
 4. 太田中學
 5. 高知師範
 6. 廣島一中
- 800米リレー
 1. 高知商業(横山、前島、明神、北村)
 9:37.2 (大會新)
 2. 修道中學(木村、藤田、宮崎、長谷川) 9:55.8
 3. 京都二商(山本、岩田、藤田、寺崎) 10:08.8
 4. 岐阜商業
 5. 臼杵中學
 6. 廣島中一

全日本中等學校大會東西優勝校爭霸戰

八月二十六日(第一日)

東西優勝校修道中學對見付中學の爭霸戰は8月26日午後一時より大阪市立築港プールにて開始、結局96對68で道修中が再び優勝した、成績下の通り。

- 100米自 1. 長谷川卯佐美 (修道中) 1:03.2
 2. 木村 覺 (修道中) 1:04.8
 3. 寺田 登 (見付中) 1:05.4
 4. 河野 隼 (修道中)
 5. 杉浦 重雄 (見付中)
 6. 水野 辰郎 (見付中)
- 400米自 1. 寺田 登 (見付中) 5:11.6
 2. 木村 覺 (修道中) 5:13.2
 3. 杉浦 重雄 (見付中) 5:16.8
 4. 長谷川卯佐美 (修道中)
 5. 藤田 昇 (修道中)
 6. 伊藤 猛 (見付中)
- 800米自 1. 寺田 登 (見付中) 10:55.6
 2. 藤田 昇 (修道中) 11:01.8
 3. 木村 覺 (修道中) 11:10.0
 4. 伊藤 猛 (見付中)
 5. 杉浦 重雄 (見付中)
 6. 長谷川卯佐美 (修道中)
- 50米背 1. 河野 隼 (修道中) 33.6
 2. 兒島 泰彦 (修道中) 34.8
 3. 富部 進 (見付中) 36.4
 4. 宮崎 良武 (修道中)
 5. 寺田 益次郎 (見付中)
 6. 伊藤 清一 (見付中)

- 100米背 1. 兒島 泰彦 (修道中) 1:16.4
 2. 河野 隼 (修道中) 1:16.6
 3. 富部 進 (見付中) 1:21.8
 4. 寺田 益次郎 (見付中)
 5. 宮崎 良武 (修道中)
 6. 伊藤 清一 (見付中)
- 100米平 1. 長久 俊三 (修道中) 1:20.2
 2. 高梨 朗 (見付中) 1:23.4
 3. 加藤 孫平 (見付中) 1:23.8
 4. 渡邊 忠道 (修道中)
 5. 中道 善久 (修道中)
 6. 星川 孝太郎 (見付中)
- 20.米平 1. 高梨 朗 (見付中) 2:57.6
 2. 長久 俊三 (修道中) 2:58.0
 3. 加藤 孫平 (見付中) 3:03.8
 4. 中道 孫久 (修道中)
 5. 渡邊 忠道 (修道中)
 6. 加藤 太平 (見付中)
- 200米リレー
 1. 修道中學
 (木村、宮崎、河野、長谷川) 1:56.4
 2. 見付中學
 (杉浦、高梨、水野、寺田) 2:00.8
- 800米リレー
 1. 修道中學
 (木村、宮崎、藤田、長谷川) 9:51.0
 2. 見付中學
 (杉浦、伊藤、小野田、寺田) 10:08.0

東西中等學校對抗戦

八月二十七日(第二日)

107對79で西部優勝す

- 100米自**
1. 宮崎 康二 (東) 0:59.6 (中等新)
 2. 新井 茂雄 (東) 1:01.4
 3. 長谷川卯佐美 (西) 1:01.4
 4. 五十嵐伊市郎 (東)
 5. 前島 一郎 (西)
 6. 木村 忠雄 (西)
- 200米自**
1. 北村 久壽雄 (西) 2:18.0
 2. 宮崎 康二 (東) 2:21.6
 3. 新井 茂雄 (東) 2:21.8
 4. 長谷川卯佐美 (西)
 5. 杉浦 重雄 (東)
 6. 林田 義人 (西)
- 400米自**
1. 北村 久壽雄 (西) 4:59.8
 2. 中村 豊太郎 (東) 5:04.4
 3. 寺崎 一夫 (西) 5:05.8
 4. 横山 清一 (西)
 5. 寺田 登 (東)
 6. 平野 茂 (東)
- 800米自**
1. 北村 久壽雄 (西) 10:12.8 (日本新)
 2. 横山 清一 (西) 10:40.4
 3. 中村 豊太郎 (東) 10:44.6
 4. 寺崎 一夫 (西)
 5. 平野 茂 (東)
 6. 寺田 登 (東)

北村のラップタイム 1:10.0 2:27.2 3:45.2 5:03.6
6:22.4 7:40.4 8:57.6 10:12.8
6:22.4 は正式計時

- 50米背**
1. 秋吉 龍二 (東) 0:33.2
 2. 河野 隼 (西) 0:33.8
 3. 明文 一 (西) 0:34.0
 4. 平賀 忠雄 (西)
 5. 小川 年男 (東)
 6. 坏 信義 (東)
- 100米背**
1. 秋吉 龍二 (東) 1:14.8
 2. 明文 一 (西) 1:15.4
 3. 平賀 忠雄 (西) 1:16.4
 4. 山田 薫 (西)
 5. 坏 信義 (東)
 6. 小川 年男 (東)
- 100米平**
1. 長久 俊三 (西) 1:20.2
 2. 葉室 鐵夫 (西) 1:20.6
 3. 筒井 八男治 (東) 1:20.6
 4. 高島 秋介 (西)
 5. 西川 仲司 (東)
 6. 加藤 孫平 (東)
- 200米平**
1. 高島 秋介 (西) 2:52.8
 2. 田口 正之 (西) 2:54.6
 3. 葉室 鐵夫 (西) 2:54.8
 4. 筒井 八男治 (東)
 5. 西川 仲司 (東)
 6. 高梨 朗 (東)

200米リレー

1. 東部 (岡部、宮崎、五十嵐、新井) 1:48.6 (中等新)
2. 西部 (平野、河原、木村、長谷川) 1:51.0 (中等新)

800米リレー

1. 西部 (木村、長谷川、明神、北村) 9:25.4 (中等新)
2. 東部 (宮崎、杉浦、中村、新井) 9:35.4

全日本中等學校最高記録

200	米	リ	レ	ー	1:52.2	西部	チ	ー	ム	(小野、井上、長谷川、正木)	神	宮	ブ	ー	ル	1931	
400	米	自	由	型	4:57.4	牧	野	正	藏	(東部)	築	港	ブ	ー	ル	1931	
50	米	背	泳		32.6	片	山	兼	吉	(東部)	神	宮	ブ	ー	ル	1930	
100	米	自	由	型	60.4	宮	崎	康	二	(東部)	築	港	ブ	ー	ル	1931	
200	米	平	泳		2:50.6	小	地	禮	三	(東部)	築	港	ブ	ー	ル	1931	
800	米	自	由	型	10:16.6	牧	野	正	藏	(東部)	築	港	ブ	ー	ル	1931	
100	米	自	由	型	2:17.6	横	山	隆	志	(西部)	神	宮	ブ	ー	ル	1930	
100	米	背	泳		1:14.4	鈴	木	政	雄	(東部)	神	宮	ブ	ー	ル	1930	
100	米	平	泳		1:18.4	小	池	禮	三	(東部)	築	港	ブ	ー	ル	1931	
800	米	リ	レ	ー	9:26.6	東	部	チ	ー	ム	(宮崎、富樫、新間、牧野)	築	港	ブ	ー	ル	1931

神宮競技と日本水上競技聯盟

游泳聯盟との交渉經過

NSR顧問 田 畑 政 治

第七回神宮體育大會水上競技が九月三十日、十月一日の兩日神宮プールで華々しく開催されんとするに際し、日本游泳聯盟なる團體が聲明書の如きものを神宮競技關係各方面に配付して恰も該團體が神宮水上競技を擔當する資格並に權利あるが如く吹聴してゐることは傳聞してゐたが我が日本水上競技聯盟としては現在では日本游泳聯盟などといふ團體を認めてゐないから此の如き團體の妄言に一々取り合つてゐる必要も義務もないので不問に附してゐたが、八月十三日正午丸ビル精養軒に開かれた水上聯盟全國代議員會の席上、水上聯盟の加盟團體である三重水泳聯盟より『神宮競技に關する日本水上競技聯盟と日本游泳聯盟との關係を簡明にしてこれを加盟團體並に競技者に徹底されたし』との提議があつたので私は同席上これを詳細に説明し、次いで同月十八日午後四時文部省内神宮體育會事務所で開かれた同會總務委員會席上で繰り返して之を説明した。

明治神宮競技大會は大正十三年、内務省主催の下に民間各代表的競技團體が協力して第一回が舉行され、引き続き大正十四年第二回大會が華々しく開催された。第三回即ち大正十五年になつて運動競技に關する所管争ひが内務省と文部省との間に起つた。從來運動競技は内務省衛生局の所管であり、従つて神宮競技も内務省の手で行はれたが、この時に至つて文部省はこれを自己の手に移さんと畫策し内務省側がこれに應ぜんとする意無きことが明場を禁止すかとなるや、文部省は學生競技者の神宮競技への出べしとなし飽くまで神宮競技に内務省の關係することに反對し、この内務省への反對手段が引いては神宮競技そのものに對する彈壓となり學生參加禁止の固執は遂に神宮競技大會開催の不可能の情勢となり、當時文部省の態度が日本運動競技界の反感の的となつたことは未だ記憶に新な所である。(大正十五年六月以降新聞紙参照)

かくの如き日本運動界未曾有の混亂の裏に、記念すべき日本水上競技聯盟の大正十五年度全國代議員

會は八月十六日京都に招集開會され、その決議により同日午後五時末弘會長の名に於て極東選手權大會不参加の聲明書と共に次の如き明治神宮競技に關する聲明書を發表した。

明治神宮競技に關する聲明書

明治神宮競技大會に關し、本聯盟は第一回以來速かに神宮外苑内に室内プールの設けられんことを希望要求せるもその後競技上の施設に關しては何等計畫の進歩せるものゝあることを聞かざるのみならず最近競技會はあくまで神宮祭日を中心としてこれを行ふこと及び學生の參加は三年毎に限りこれを許すの主義確立せられたいといふ、本聯盟はかくの如き制限を付するをもつて全く無意義なりと確信するのみならず學生を除外して、これを行ふことは事實上全く不可能なるををもつて速にかゝる無用無意義なる制限の撤廢せられんことを要望すると同時に競技會の設備期日等に關しても本聯盟の希望が一日も速かに達せられんことを希望し、それまでの間本聯盟として神宮競技大會に参加盡力し得ざるを甚だ遺憾とする。

即ち聲明書の要旨は

- 一、學生を除外して競技會を行ふことは事實上全く不可能であるから、これを撤廢すべきことを要望する
- 二、神宮競技を神宮祭日を中心として行ふことは少くも水上競技に關しては過去第一回、第二回の經驗に徴して不可能であるから、飽くまで神宮祭日を中心として行ふならば室内プールの設置を要求し、若しそれが不可能ならば期日の制限の撤廢を要望する。
- 三、以上の二ヶ條が容れられないならば實際問題として神宮競技大會の水上競技は行ふことが出來ないから日本水上競技聯盟は二つの希望條件の解決するまでは遺憾ながら神宮競技大會に参加盡力し得ない。

といふにある。これは當然過ぎる程當然の言ひ分で現在に於ても水上聯盟では尤もだと思つてゐる。

かくて日本水上競技聯盟は第三回の神宮競技より参加せず、日本游泳聯盟なる團體が参加し第三回、第四回を行つたのである。然し水上聯盟が参加しなくなつたため水上聯盟加盟團體は當然参加せず、従つて學生選手を始め日本に於ける優秀なる競技者は全然参加しなかつたので、水上競技は陸上その他の競技に比し問題にならぬ程、量質共に貧弱であることは免れなかつたのであるが、この時に至つては日本水上競技聯盟の神宮競技に對する不参加の二條件である學生参加問題並に水上競技の期日を明治神宮祭日と切りはなし、適當なる時期に行ふことの二條件が二つながら解決されたので、全日本水泳の統轄代表團體である我が日本水上競技聯盟は他の競技の統轄代表團體と共に神宮競技に参加盡し水上競技も他の競技と同様これを權威あるものたらしむる義務ありと痛感するに至つたのである。恰もこの時明治神宮體育會の總務委員芦田公平、評議員(陸上)山岡愼一兩君が水上聯盟の考へる處と同様の理由で水上聯盟の参加協力を要望したので水上聯盟は昭和四年第五回より再び神宮競技に参加し、同年の大會には水泳を一部、二部に分ち日本游泳を一部とし水上競技を二部とし、日本水上競技聯盟は差し當り不振を極めてゐた水上競技を擔當したのである。水上聯盟の参加が神宮水上競技のために如何に有意義であつたかは第三回、四回の大會と第五回以後の大會とを比較すれば自ら明かである。游泳聯盟では水上聯盟が再参加の場合、水上聯盟の會長が神宮體育會の副會長に對し謝罪を條件としたといつてゐるが、水上聯盟は學生の不参加と期日の問題で参加しても事實上競技會の開催の不可能の場合に参加と協力を辭退し、その二條件が撤廢されて水上聯盟が参加すれば立派な神宮競技が出来るやうになつた時、再び参加して神宮競技を有意義にしようとしたのであるから、感謝されこそすれ何等謝罪なぞすべき理由はなく、又實際問題としても水上聯盟は斷じてかゝる約束したことはないのである。又游泳聯盟は「水上聯盟が輿論の批難によつて再び参加を希望した」といつてゐるが大正十五年の聲明書に關しては、極東大會不参加については輿論の批難は受けたらうが神宮競技不参加には何等批難は受けてゐない。よし批難は受けたとしても、無理解なる批難によつて水上聯盟が未だかつて所信を曲げ指導精神を改變したことはないのは天下周知の事實である。水上聯盟が敢て神宮競技に参加したのは不参加

の理由がなくなつたことと、日本水泳界の統制上の問題と今一つは水上聯盟の不参加により神宮大會水上競技が如何にもみぢめ極り座視するに忍びなかつたからである。

かくて日本水上聯盟は第五回より再び神宮競技に参加したが同じ水泳に二つの團體が参加してゐるのは日本水泳界の統制上面白くないので游泳聯盟と折衝の結果、昭和五年六月十一日、游泳聯盟と右の契約書を交換した。

鈴木和志理氏より石本巳四雄氏に宛てた書論
前略昨日御話申上げ候兩聯盟間契約書作製致し二
通同封致候間末弘君と貴兄との署名あるもの一通
御郵送被下度願上候
先は爲其

六月十一日

鈴木生

石本君

契 約 書

日本游泳聯盟ハ左ノ條件ヲ以テ日本水上競技聯盟ニ加入スル事。

一、日本游泳聯盟ハ此際從來ノ規則ノ一部ヲ改正シ『アマター』ヲ標榜スル競技團體トナリ日本水上競技聯盟ニ於テ制定サレタル規定ニ遵フ。

二、日本水上競技聯盟ハ日本游泳聯盟ヲ以テ全國的日本游法團體ナル事ヲ認メ其ノ範圍内ニ於テハ自治ヲ認ム。

但日本游泳聯盟ハ全國的日本游法ノ代表機關タル組織ト實質トヲ有スル事ヲ條件トス。日本游法ノ定義ハ日本ニ行ハレタル各流傳統的游法及ビ此等游法ヨリ誘導サレタル游法ノ意味ナリ。

三、日本游泳聯盟ハ日本水上競技聯盟ニ役員トシテ理事一名代議員五名ヲ選出スルト同時ニ日本水上競技聯盟ヨリハ日本游泳聯盟中ニ數名ノ委員ヲ選出シ役員ニ加フ。

四、神宮體育會ニハ日本水上競技聯盟ガ全日本水泳ノ統轄代表團體タル資格ニ於テ加盟ス。但シ神宮體育會評議員ノ人選ハ日本水上競技聯盟理事會ニ於テ決定ス。

五、神宮水上競技會ニ於テハ日本游法ヲ存續ス。
六、日本游泳聯盟ガ單獨ニ競技會ヲ行フ場合、自己ノ分野ニ非ザル競技ヲ挿入セントスル時ニハ日本水上競技聯盟ノ受諾ト競技役員ノ参加トヲ必要トス。

右條項ニ依リ日本游泳聯盟ガ日本水上競技聯盟ニ加入スル事ヲ契約シ契約書貳通ヲ作製シ兩聯盟ニ於

テ各壹通宛ヲ保有ス。

昭和五年六月十一日

日本水上競技聯盟

末 弘 嚴 太 郎 ㊟

石 本 巳 四 雄 ㊟

日本游泳聯盟

千 葉 眞 一 ㊟

鈴 木 和 志 理 ㊟

備考、當時游泳聯盟には會長なく千葉、鈴木兩君
がその代表者であり、兩君は現に游泳聯盟の副
會長である。

當時日本游泳聯盟は東京一部の日本泳法關係者の
集りであつたので之を全國的とするため、水上聯盟
と游泳聯盟とは委員を選出して日本游泳聯盟の組織
改造に着手し、同年十月九日左の規約を制定したの
である。

日本游泳聯盟規約

- 第一條 本聯盟ハ日本游泳聯盟ト稱ス
第二條 本聯盟ノ事務所ヲ東京ニ置ク
第三條 本聯盟ハ「アマター」ヲ標榜ス
第四條 本聯盟ハ日本游泳各流ノ連絡ヲ取り併セ
テ日本游泳ノ向上發達及ビ普及ヲ計ルヲ以テ目的
トス
第五條 本聯盟ハ本聯盟ノ承認セル日本游泳各流
ヲ以テ組織ス
第六條 本聯盟ハ日本水上競技聯盟ニ加盟シ日本
水上競技聯盟ノ日本游泳ニ關スル部分ヲ擔當ス
第七條 本聯盟ノ費用ハ各流ニテ負擔ス但シ其負
擔額ハ實行委員會ノ決議ヲ以テ定ム
第八條 本聯盟ニ左ノ役員ヲ置ク但シ役員ハ任期
ハ二年トシ會長以外ノ役員ハ半數宛改選シ但シ重
任ヲ妨ケス
一、會 長 (一名)
一、副 會 長 (二名)
一、實行委員 (二十名)
一、代表委員 (三十名)
第九條 各流家元ヲ名譽顧問トス
第十條 顧問ハ斯道ノ發達若クハ本聯盟ニ對シ功
勞アリト認メタル者ヲ實行委員會ニ於テ推薦シ會
長之ヲ決定ス
第十一條 本聯盟ノ創立ニ特ニ功勞アリタルモノヲ
相談役トス
第十二條 本聯盟ノ目的ヲ贊シ特ニ援助ヲ與フルモ
ノヲ贊助員トス
第十三條 代表委員ノ選出ハ各流ヨリ三名宛及ヒ日

本水上競技聯盟ヨリ六名トシ毎年三月中ニ氏名住
所流名ヲ會長宛申告スヘシ

第十四條 代表委員會ハ本聯盟ノ決議機關ニシテ毎
年一回定例代表委員會ヲ開ク。定例代表委員會ハ
會長副會長及ビ實行委員ヲ選定ス。實行委員會ノ
決議ニヨリ緊急ニ代表委員會開催ノ請求アリタル
時ハ會長ハ議事々項ヲ明記シテ代表委員會ヲ召集
スヘシ

第十五條 實行委員ハ在京代表委員中ヨリ選出セラ
ルルモノニシテ各流ヨリ二名宛及ヒ日本水上競技
聯盟ヨリ四名トス。實行委員ハ聯盟ノ常務ヲ管掌
シ且其選出セラレタル流儀トノ連絡ノ責ニ任ス

第十六條 (一)會長ハ本聯盟ヲ代表ス
(二)會長 代表委員及ヒ實行委員會ノ議
長トス
(三)會長差支アルトキハ先任ノ順位ニ依
リ副會長代行ス

第十七條 日本水上競技聯盟ニ對シ選出スル役員ハ
實行委員會ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 新ニ本聯盟ニ加盟セントスル流儀ハ會長
宛加盟申込ミヲナスヘシ。加盟ハ代表委員會ノ滿
場一致ノ賛成ヲ要ス

第十九條 本聯盟ニ加盟セル流儀ニシテ本聯盟ノ主
旨ニ反スル行爲アリタル時ハ實行委員會ノ決定ニ
ヨリ注意ヲ與ヘ其程度ニ依リテハ聯盟加盟ノ資格
ヲ停止セラレ若クハ除名セラルヘシ

第二十條 本規約ヲ改正スルニハ代表委員會ノ決議
ニ依ルヲ要ス

以上

加盟流儀 (五十音順)

岩 倉 流 觀 海 流 小 堀 流 神 傳 流

水 府 流 野 島 流 向 井 流 山ノ内流

以上

かくて水上聯盟は正式に明治神宮體育會に加盟し
その組織團體となり、一方日本游泳聯盟の加盟を督
促したのであるが、游泳聯盟より

一、游泳聯盟會長二荒伯は水上聯盟會長末弘博士
より社會的地位が上位にあるから游泳聯盟は水
上聯盟の下に加盟することは出来ぬ。(これは勿
論二荒伯の關知せざる處であらう。)

二、昭和五年六月の契約書は組織改造前の游泳聯
盟がなせるもので現在の游泳聯盟は名前は同じ
でも實質が全然異なるから現在の游泳聯盟は前の
契約書の責任を負はぬ。

と云つて契約を履行せず、依つて水上聯盟は運動團
體の組織は會長の社會的地位に依るものでないとい
ふ點、游泳聯盟の組織を改造する事を條件として水

上聯盟はその加盟を承認するのであるから現在の游泳聯盟が當然加盟すべきである。若し加盟しなければ游泳聯盟は神宮競技に参加出来ぬといふ點を説いても游泳聯盟は遂に加盟の手續をとらないので水上聯盟はいつまでも日本泳法を等閑に附して置くわけに行かず水上聯盟の中に標準泳法委員會を設置し、本田存、加福均三、原正一諸君を始め斯界の權威者の参加と協力を得て日本泳法の研究並にその合理化を策し、これによつて神宮大會に日本泳法を公開することに決定したのである。游泳聯盟の聲明書のうちに「第六回體育大會（昭和六年）開催に際し游泳聯盟は石本氏と交渉したが議纏らまなかつた」と云つてゐるがこれは纏まらぬのが當然で、その前年即ち昭和五年六月の契約書を履行した場合に於てのみ日本水上聯盟は游泳聯盟に日本泳法を擔當せしむるのであつて、契約書を履行せない場合、游泳聯盟に何で日本泳法を擔當せしめることが出来やうか。水上聯盟は斯の如く何等誠意を認めることの出来ぬ游泳聯盟と交渉を續けることの全く無意義であることを體驗し昭和六年四月の學士會館に於ける會見を最後に積極的交渉を打ち切つたのである。又游泳聯盟は「水上聯盟から評議員が出てゐるのは怪しからぬ」といつてゐるが昭和五年六月の契約書の第四項を見ればそんな言葉が今更いへた義理ではない筈のものである。又、現在の水上聯盟は明治神宮體育會規約第四條にある明治神宮體育會の組織團體である以上神宮體育會の規約第十二條第一項に依り評議員を出すは之亦當然である。要するに游泳聯盟の聲明書は昭和五年六月の契約書を無視しての話で、何等反駁する價值さへ無いものである。

最後に游泳聯盟は私が「游泳聯盟の存在並に發展を排撃する」といつたといつてゐるが私は游泳聯盟が己れの分野である日本泳法の研究に没頭してゐれば敢て何をいはう。寧ろこれを尊敬するものである。只現在の游泳聯盟の諸君が水上聯盟の事業の餘りにも華々しいのをしつ視して然も日本泳法のみを守つて居ては大衆受けがしないのをあせつて自己の職責の範圍外に出て、水上競技までも行はんとするのは武道としての日本泳法の墮落であり、又日本水泳界の統制上許すべからざるものであるからこの場合は飽くまでも彈壓するといつたまでである。然もこの所信は游泳聯盟が何んといつても修正すべきものでないと私は確信してゐるし、又日本水上聯盟としても全く同様の見解を持つてゐるものであることを此處にはつきり言つて置く。

尙、日本水上競技聯盟は昭和五年の契約を履行し

ない日本游泳聯盟を認めず、従つてその主催する競技會に出場するものは當然アマター資格を停止されるのであるからこの點、特に加盟團體並に競技者諸君の注意を喚起するものである。（終り）

〔附記〕此稿執筆後、日本游泳聯盟は神宮體育會に對し「十月八日に神宮體育大會水上競技第一部大會を舉行し日本泳法の公開と競泳その他の競技を行ふ」べき旨の書面に依る申込みがあつたが九月七日の神宮體育會總務委員會は「神宮大會の水上競技部は日本水上競技聯盟が擔當してゐるのであるからその代表者よりの申出が無い限り直接游泳聯盟の申出では認められない」といふ意味の返事を出しこれと同時に明治神宮宮司、明治神宮外苑管理署長、各鎮守府長官、京東市長、各府縣知事、各殖民地長官、各體育會長に對し「游泳聯盟の計畫は明治神宮體育會の全然關知せざる處である旨を」通達した。これは當然の處置であると思ふ。

尙本文中の本年七月附の游泳聯盟聲明書並に九月附の同聯盟より神宮體育會に提出した書面は共に游泳聯盟の代表者の署名捺印がない。これは確聞する所に依れば游泳聯盟の一部分子がこれを一括して明治神宮體育會に提出せんとしたのであるが、同聯盟會長二荒伯はこれを承認せずこれに署名捺印することを拒否したので、彼等はこれを二分し聲明書とをの如きものを神宮體育會には提出せず、之を竊に神宮關係方面に配付し一方、二荒伯が外遊した機會を利用して神宮競技開催の書面を神宮體育會に提出したのである。私は最も純眞にして公正であるべき運動界にかゝる不純分子のあることを心より悲しむものであるが、これと同時にかくの如き不純分子が如何に策動しても全日本の水泳界は微動たもせぬ程、日本水上競技聯盟によつてその統制を保持せられてゐることは當然であるとはいへ喜ばしいことである。

—了—

宮崎君の病氣

宮崎康二君が肋膜炎で再起不可能の旨が新聞紙で報導されたが、九月九日水上聯盟醫事部の村尾立平氏の診断の結果中等學校東西對抗直後、扁桃腺に罹り氣管支を侵され極めて輕微の肋膜炎を起したことが判明した。九月二十日頃から登校は不可能で明年一年位要心すば今後の競技生活には支障を來すやうなことはないとの事である。

世界情報

一、獨逸對和蘭水球戰

六月十六日ロツテルダムに於て行はれた獨和水球戰は 5:2 で獨逸が勝つた。メンバーは次の通りである。

獨逸、リヒター、デツベル、シュワルツ、ハース、シュルツ、マイヤー、アツキラデマツヘル、

和蘭、モウセット、ファンオーステルローム、インゲルイツフ、ケーラー、エールスト、ダートゼラール、ファンデルウオツシユ、

審判 デラーヘ(白耳義)

獨逸チームは此迄まとまつて試合をしたことはなかつたが此の競技に於ては、始めから統制がとれて居た。前半は和蘭軍の活躍目覺しく 1:1 で獨逸軍の攻撃を食ひ止めたが後半は次第に崩れ、結局 5:2 で敗退した。和蘭軍が世界的な獨逸チームを向ふに廻しての奮闘は激賞に値するが、特にダートゼラールの技が光つて居た。獨逸軍は、前半稍押され勝であつたが、後半和蘭軍の疲勞に乗じて瞬く間に4點を恢復して、此を一蹴した 個人的には見るべきものがないが、チームワークが完全であつたものゝ如くである。

二、佛蘭西對西班牙

六月十六日巴里ツール競泳場で舉行、結局3對0で佛軍が優勝した。成績下の通り、

250米リレー 1. 佛 蘭 西 2:23.8

2. 西 班 牙 2:24.8

800米リレー 1. 佛 蘭 西 9:55.0

2. 西 班 牙 10:47.0

水球 佛蘭西 2:0 西班牙

三、英 獨 對 抗

六月上旬アウグスブルグで舉行された獨英水上競技戰は51對41で獨逸の優勝となつた。

(水路25碼)

100碼自由型 1. シュステル (獨) 0:57.5

2. ラ ッ ベ ル (獨) 0:59.5

3. ビ ャ ー マ ン (英) 1:01.4

4. ボ ー ク ト (獨) 1:01.5

100碼背泳 1. ミ ル ト ン (英) 1:10.5

2. ガ イ ゲ ル (獨) 1:12.0

3. ヘ ル (獨) 1:14.0

4. バ ウ エ ル (獨)

400碼自由型 1. ミ ル ト ン (英) 4:50.1

2. リ ン ダ ー ス バ ッ ヘ ル

(獨) 4:55.2

200碼リレー 1. ミ ュ ン ヘ ン 1:45.8

2. アウグスブルグ 1:46.8

3. 英 國 1:48.2

四、佛蘭西對白耳義

七月上旬巴里ツール水泳場で舉行。結局 38:25で佛軍が優勝した。成績下の通り。

水球 佛 2:4 白

800リレー 1. 佛 9:56.0

2. 白 10:32.0

100背 1. ス ァ ー ル (佛) 1:16.6

2. プ リ ッ ツ (白) 1:17.0

100自 1. タ リ ス (佛) 1:01.6

2. デ イ ー ナ ー (佛) 1:04.2

200平 1. ラ ウ ピ イ (佛) 2:57.4

2. ベ ノ イ (佛) 3:02.2

五、獨逸對佛蘭西

第七回獨佛對抗水上戰は7月9日巴里ツールで舉行 2:0 で始めて佛蘭西が勝つた。

800リレー 1. 佛國チーム 9:44.8

ノ バ ー ル 2:34.0 デ イ ー ナ ー 2:27.0

ロ イ ク 2:26.0 タ リ ス 2:17.8

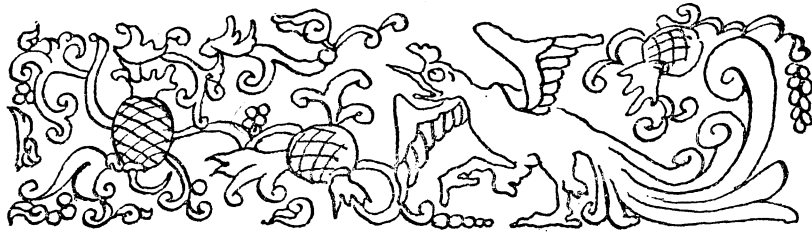
2. 獨逸チーム 9:52.4

レンキツチュ 2:29.1 デ リ ク ス 2:32.6

ウエフイング 2:27.1 ダイテルス 2:23.6

佛國チームのタイムは佛蘭西新記録であつた。

水球 佛 5:4 獨 [これより以下20頁に續く]



昭和八年度定例代議員會議事録

昭和八年度の定例代議員會は日本選手權大會の第二日、八月十三日（日曜）午前十一時より東京市麴町區ビル九階精養軒に於て午餐後直ちに開催され、豫定の議事滞り無く進行し、午後二時二十分閉會。全員直ちに選手權大會へ馳せ参じた。

出席者 四十五名。出席加盟團體、十八。（含委員狀。）缺席加盟團體 十四。（岩手水泳協會、山形縣體育協會、富山縣體育協會、石川縣體育協會、兵庫縣體育協會、和歌山縣體育協會、松江體育協會、岡山縣體育協會、廣島縣教育會、愛媛縣體育協會、臼杵體育協會、朝鮮體育協會水泳部、臺灣體育協會、滿洲體育協會。）

聯盟本部、會長 末弘嚴太郎。**名譽主事** 松澤一鶴。**名譽會計** 奥野良。**評議員** 小林榮三、野村憲夫、本井功、大澤保三郎。**顧問** 飯田光太郎、石本巳四雄、田畑政治（前主事）杉本傳。**各専門部委員主任** 島崎保正（飛込）小松崎三次（標準泳法）湯淺榮子（女子）安部輝太郎（外國關係）鶴岡英吉（編輯）渡邊寛二郎（記録）

代議員 松浦武雄（北海道水上競技聯盟）全權委任（宮城水泳協會）小松崎三次（茨城縣體育協會）松木鐵太郎（千葉水泳聯盟）西本龍三、中村豊（關東水泳協會）白山源三郎、岡田辰雄（橫濱水泳協會）野村佐多雄、樋口政忠、宮下十一郎（新潟水上競技聯盟）神方敏（野尻湖游泳協會）川口又男、大橋國太郎（靜浦游泳協會）牧野敏一、中村豊（濱名灣游泳協會）服部崎市、鬼頭正雄、齊藤劔次（名古屋體育協會）岡部政藏、角田忠四郎（三重水泳聯盟）深山泉、大澤保三郎（京都體育協會）齋藤魏洋、高石勝男、杉本傳（大阪體育協會）鶴岡英吉（高知縣體育協會）全權委任（福岡水泳協會）佐々布質直（熊本縣體育協會）林忠雄、大井忠紀、松本隆重、中村秀吉、三橋達郎（全國學生水上競技聯盟）

配布書類 昭和八年度代議員會次第、昭和九年度

聯盟事業計劃便概、昭和七年度聯盟決算書（別紙、オリンピック遠征費報告、オリンピック豫選會勘定昭和七年度選手權大會勘定、雜誌水泳發行勘定）

昭和九年度聯盟豫算案、昭和七年度代議員會議事録（雜誌第15號）參考書類（綜合運動團體寄附行為草案、游泳聯盟意見書、游泳聯盟と N.S.R. との協定契約書寫、濱名灣游泳協會小學校大會計劃書、東京小學校水泳聯盟規約及同聯盟小學校大會計劃書、競泳池測量の要領）

1. 末弘會長の挨拶 昨年のオリンピック終了以後本聯盟は陣容を新にして水泳の全國普及運動を第一主義として活動して居るが、此も亦廣く全國に人材を求めて次のオリンピックに善處せんとするに外ならぬ。全く全國の水泳關係者が、がっちり肩を組み合せて進んでこそ次のオリンピックにも再び更により成績で勝つ事が出来るであらう。その爲には水上聯盟も一層大きな組織と多數の事業とを必要とするであらうが、此に對しよく協議せられたい。

2. 前回議事録確認 雜誌「水泳」第15號所載の前回代議員會議事録は全回一致を以て可決さる。

3. 會務報告 名譽主事より報告すべき所時間を節約する爲に、既にその都度雜誌にも報告せられて居る故に省略した。

4. 各部委員報告

外國關係委員（安部） 大陸對抗リレーの優勝チームに贈らるべきデヨーデハーン永久カップを國際水泳聯盟に於て日本に送るのに一流銀行の五百弗保證を要求せられたる事の不當を詰問し、日本への送附方を容易にせしむる様交渉せんとする事。尙國際水泳聯盟理事會に對し日本より郵便投票權の獲得、世界記録規定の改正（日本に於に於けると同様にす）オリンピック競技組合せ規則の改正を提案せんとする旨の報告あり。

標準泳法委員（小松崎） より今年七月舉行せる水泳講習會の概要報告、記録委員（邊渡）より石川縣松任町プール公認追加の報告、女子部委員（湯淺の

代理に主事)より女子競技開發の爲今夏三地方對抗の全國女子水上競技大會を本聯盟及名古屋體協主催にて開催する件の報告があつた。

編輯委員(鶴岡)より機關雜誌「水泳」發行の概況に就て報告あり。目下の所一回發行に付約五十圓聯盟に於て補助する状態である旨報告があつた。此に對し主事より、雜誌はなるべく獨自に發達せしめ漸次基礎を作る積りであつたが、聯盟事業が著しく擴張された現在は雜誌の方への補助もなるべく無くする様にしたいから、各加盟團體に於て義務として有料講讀者を十部以上増加せしむる事を引受けて貰ふ事を提案した所、かゝる少部數に對して各加盟團體としても責任を果し得られるとの見解の下に満場異議なく賛成した。

4. 聯盟役員異動に關する件 本年は役員の改選すべきものが無いが、既に雜誌19號に於て發表せる異動に對し代議員會の承認を求め左の通り確定した。尙高石勝男氏を常務理事に加へられた。

名譽會計 奥野良、 競技委員主任 野田一雄、
常務理事 林忠雄、高石勝男、

5. 極東大會改造經過報告 (田畑政治) 雜誌第18號所載の該大會改善交渉の經過に關して提案者である本聯盟の立場及經過を詳細に田畑政治氏より報告する所があつた。尙今後善處すべき事を會長より附言せられた。

6. 日本運動競技聯合創設經過報告 (田畑政治) 雜誌第19號所載の綜合運動團體の創造に關して同様に本聯盟が提案して以來現在までの經過に關して、主として折衝の任に當つた田畑政治氏より報告した。新に組織さるべき日本運動競技聯合に對する本聯盟よりの代表理事の選定方に就ては末弘會長一任となつた。

7. 議事

A 加盟團體新規申込の件 熊本縣體育協會、兵庫縣體育協會、横濱水泳協會、千葉縣水泳聯盟、山形縣體育協會、富山縣體育協會、茨城縣體育協會、以上六團體は既に在京代議員會にて承認せるものなるが故に改めて代議員會の確認を求めた。小樽體育協會は組織改造と共に北海道水上競技聯盟と改稱する事。更に新に福島縣體育協會、香川縣體育協會、長崎縣水泳協會、上海日本人體育協會の加盟の件を同時に議題とし、全部加盟承認せられた。尙縣體育協會名義のものは更にその水泳部の實情を調査する事をも附加へられた。

B 昭和七年度決算 名譽會計奥野良氏より説明、満場一致可決された。從來不備なりしを今回より聯

盟規約に依る會計年度にて締切り報告せる故、一部既發表の分と重複する所あるも、今年度決算に於ては一層完備せしめる事が出來ると説明された。

昭和七年度聯盟會計決算

自昭和七年五月一日 至昭和八年四月三十日

收 入 之 部

A 經常收入		3,640.55
文部省補助金	600.00	
加盟分擔金	610.00	
銀行預金利子	1.92	
前期繰越金	2,428.63	
B 臨時收入		13,102.71
米國 AAU ヨリ返金	\$ 2,000.00	
選手權大會收入ノ内		
關東水協ヨリ納入金	1,478.47	
指定席賣上	2,540.00	
寄附金(關東水協ヨリ		
選手權大會收入)	2,956.96	
借入金	6,127.28	
内譯 學聯ヨリ	5,557.28	
關東ヨリ	570.00	
C 未收入		50.00
加盟分擔金未納分	50.00	
内譯 岩手水協	20.00	
廣島教育	20.00	
松江體協	10.00	
收 入 合 計		16,793.26
		外 = \$ 2,000.00

支 出 之 部

A 經常費		5,431.54
體育協會加盟金	100.00	
FINA 加盟金	(£ 3-00)	
事務所費	1,462.13	
借室料 @ 90×7	630.00	
敷 金 @ 90×3	270.00	
電話架設費	520.00	
電話料	42.13	
人件費	420.00	
新事務所用什器	185.80	
競技用器具費	1,507.35	
銅製飛板	900.00	
水球用具其他	607.35	
通信印刷消耗品車馬費	628.28	
會合費	960.58	

代議員會 理事會

競技委員會

雜費	167.40	
B 事業費補助	10,340.47	
	外ニ	2,000.00
水泳講習會	162.83	
雜誌水泳	1,203.60	
オリンピック選手歓迎	441.96	
“ フィルム映寫	58.27	
米國選手招聘費	5,866.53	
オリンピック遠征費	2,607.28	
同上	\$ 2,000.00	
C 次期繰越金	1021.25	
繰越金	971.25	
未収入	50.00	
支出合計	16,793.26	
	外ニ	\$ 2,000.00
差引	0	

事業費會計

I オリンピック遠征費用報告

圓貨勘定之部

收入		支出	
體協ヨリ	10,413.50	準備費	9,564.72
水上聯盟ヨリ	11,404.63	合宿費	1,309.03
學聯ヨリ借入	2,607.28	交通費	6,714.34
		雜費	1,429.24
		弗勘定へ	3,369.55
		聯盟會計	2,042.58
合計	24,425.46	合計	24,425.46

弗貨勘定之部

收入		支出	
體協ヨリ	\$ 8,058.05	準備費	\$ 119.58
AAU 返金	2,000.00	合宿費	4,596.85
桑港寄附	1,829.15	交通費	4,887.43
兩替	901.30	雜費	3,184.64
合計	\$ 12,788.50	合計	\$ 12,788.50

II オリンピック豫選會勘定

收入		支出	
第二次豫選會	812.50	兩會プール代及大會	
最終豫選會	13,791.49	準備費	3,450.17
プロ賣上	489.55	六年度聯盟會計不足	
プロ廣告料	600.00	分充當	2,164.47
申込金	128.00	オリンピック遠征	
宮家御下賜金	30.00	補助	10,236.90
合計	15,851.54	合計	15,851.54

III 昭和七年度選手權大會勝定

收入		支出	
入場料	6,083.65	印刷代	16.00
廣告料	322.00	プール使用料	789.62
補助費	1,441.10	準備費	1,164.60
		米國飛込選手招聘費	
			5,846.75
合計	7,846.75	合計	7,846.75

IV 雜誌「水泳」勘定

收入		支出	
雜誌講讀料	937.80	發行ニ關スル印刷費	
聯盟補助費	1,203.60	會合費ソノ他	2,141.40
合計	2,141.40	合計	2,141.40

C 昭和九年度豫算 奥野名譽會計より總出。松澤主事より説明、本聯盟も組織化するに從ひ豫算計上を必要とするに至つた。主として昭和七年十一月新事務所開設後の實際に依り組んだものであるが、數字の示す様に非常に事業が膨脹して居るにも拘らず經常收入の微弱を有力に物語つて居り、此に對して我々の事業計劃を慎重にしなければならぬ事を感じさせる。競技會よりの收入は一萬一千圓收入があると云ふのでは無くて、我々が事業を遂行發展せしめる爲には競技會に此だけの收入を擧げなければならぬ苦境を示すものである事を説明した所、滿場一致積極的に事業方面を支持する事として本案を可決した。

昭和九年度水上聯盟豫算

自昭和九年五月一日 至昭和十年四月三十日

收入之部

A 經常收入	1,710.00
文部省補助費	600.00
加盟團體分擔金	1,110.00
内 Aクラス 6	300.00
Bクラス 27	810.00
B 事業收入	12,140.00
雜誌講讀料收入	800.00
競技會收入(二回分)	11,340.00
收入合計	1,710.00

支出之部

A 經常支出	6,540.00
1 加盟金	170.00
FINA (375法)	70.00
體育協會	100.00
2 事務所費	2,120.00
借室代	1,080.00
電話料	200.00

人件費(二人)	840.00	
3 事務費	1,350.00	
通信費	500.00	
印刷費	600.00	
消耗品費	250.00	
4 會合費	1,000.00	
代議員會	200.00	
理事會	300.00	
各部委員會	500.00	
5 競技用品費	1,200.00	
飛込用具	900.00	
水球用具	200.00	
競泳用具	100.00	
6 車馬費	100.00	
7 雜費雜給費	600.00	
B 事業費補助		2,310.00
1 講習會	100.00	
2 雜誌發行	800.00	
3 獎勵費	210.00	
記録證	60.00	
記録章	150.00	
4 巡回コーチ補助	500.00	
5 調査費	300.00	
圖書購入費	100.00	
アマター調査	200.00	
6 極東豫選會及合宿補助	250.00	
7 小學校水泳獎勵費	50.00	
C オリンピック積立金(九年度分)		5,000.00
支出合計		13,850.00

D 來年度選手權大會開催地決定の件 此の件に關しては名古屋及三重より來年度は名古屋に於て開催され度しとの案が提出されて居つたが、松澤名譽主事より選手權大會を地方にて開催するには現在日本に於ては名古屋を最適と考へるが、前項豫算の數字に明かなる様にオリンピックへの準備を考へながら本件を處理せんには引續き東京に開催するに如かず。しかし名目としては中央偏重の批難もあるかも知れぬが、選手權大會を或る地方にて開催しても刺戟を受くるは極めて小部分にて此により全國を刺戟開發せしむる事は出来ないから、結局地方普及の爲には他の方法を取らなければならぬ。かゝる見地から來年も東京に開催し、地方への普及は他の適當なる方法を講ずるを可とする旨を述べたる所、提案者である名古屋體協代議員服部崎市氏立つて、主旨を了解し快く原案を撤回し、希望として選手權大會を地方へ移し得る日が來た時は第一に名古屋を選定さ

れ度旨演べた、之に對して末弘會長よりも謝辭を述べ、重ねて地方開發水泳普及の爲に他の方法を講ずる事を言明した。尙來年度選手權大會開催期は他の事業との關係もあり、理事會に一任された。

E 來年度新規事業に關する件

a 巡回コーチ派遣。(三重提案) かねて聯盟本部に於ても考へて居つたので、コーチを學生聯盟より適當なる人を物色し、七月初旬實施する、全國を數區に分つて巡回せしむ。費用は水上聯盟に於て補足する程度とし、各加盟團體に於ても少し負擔して貰ふ、コーチを受けんとする團體は本年末頃までに聯盟本部まで希望を申出る事。

b 地方獎勵トロフィーを出す事。(三重案) 費用の關係もあり、追而考究の事。

c 極東豫選會 極東大會を秋に行ふと云ふ日本の提案は比島側に於て承認せず、従つて開催期は五月中旬である爲に日本に於ける最終豫選會は遅くも四月中旬開催しなければならぬ。従つて室内プールを使用する爲に甲子園プールを第一候補として計劃する、代表選手詮衡方針は50米自由形以外は日本選手權大會の極東種目の成績にて大部分を決定し、全國學生聯盟大會及神宮競技記録種目の五十米自由形に該種目の選手を決定し、室内豫選會に於ては此以外の必要なる選手及事故の爲の缺員を決定する事に決定した。

d 國際大會開催の件 來夏を期し我が選手の技術を向上せしめんが爲に東京に於て國際大會を開催せんとする。各國に於て世界記録等の優秀なる成績を出して居る選手十名位(各國のマネージャーを除く)を招き、八月中旬對抗に非ざる國際大會を開く事は一致賛成し計劃萬端は常務理事會に一任された。尙右外國選手は時間の許す限り地方にて泳がしむる豫定である。従つて選手權大會は其の前(大體八月上旬)に行ひ選拔を兼ねる事とならう。尙昭和十年度夏には再び日米對抗を開催したい方針である事を發表した。

e 新研究項目 人命救助に關する件、記録の爲の時計の研究、アマター登録開始に對する準備の事が可決された。

f 各地に於いて講習會を開催する件は標準泳法委員及常務理事會に一任された。

F 聯盟規約改文の件 聯盟の規約は全文に亘り改正の要あり。改正案は常務理事會に一任され、原案を各加盟團體に送り後決定する事。

a 日本選手權大會に關する細則を決定する事。b 専門委員に青年團及小學校關係の委員を設定する

事。以上常務理事會一任。

c 加盟團體中 Bクラスより Aクラスに編入するに要すべき資格規定の件 (靜浦提出) 此の件に關しては編入の始めより代議員會の決議に従ふものなるに依り、此の場合も全く同様にて差支へ無き旨説明したる所、提案者に於ても了解し原案を撤回した。

G 加盟團體に關する件

a 選手權大會に對する義務の地方豫選を開催せざる團體及 **b** 加盟金を支拂はざる團體に對しては一時加盟權を停止する事に一致可決した。

c 加盟團體として廣範圍の地域を統轄せんとする思想、或は行政區劃に固執せんとする思想を排撃し、水上競技として都合よく行はるべきを主眼とし、今後も本聯盟としては小地域に小加盟團體を増加するを方針とする事を説明した。

d 選手權大會地方豫選を義務として開催する事となつて居るが、此は豫選としてのみ考へず地方選手權大會として重點を置く様考へて直ふ事も併せて説明した。

e 地方加盟團體増加に伴ひ加補團體に地理的區劃を必要とするや。尙千葉よりその地方豫選會に他地方選手の出場の可否の質問と併せて主事より答へた。未だ地域協定がない爲又選手の夏の生活の便宜の爲、自由になつて居るが、此の爲にも前項の主旨に従つて改善したい。その原案作製は聯盟規約改正と同時に常務理事會に一任され度旨を述べ可決された

f 縣體育協會の名義にて加盟せるものはなるべく水上競技部の確立を圖り、その部に依つて加盟せしむる様規約を改正するの件 (理事會案) 稍もすれば縣體協の加盟は水泳としては不活潑となる傾向あり、その爲にその地方の水泳熱心家を以て中心とする必要あるを認めて居る。此の件も聯盟規約改正と同時に考慮すべき事一任された。

H 聯盟統制に關する件

a 日本女子水上競技聯盟解消經過報告 (松澤) 本聯盟に於て女子競技の發展策を講ずると共に日本女子水上競技聯盟に於ても快くその事業を中止してすべてを本聯盟に委ねるに至つた經過を報告した。

b 日本游泳聯盟に對する態度如何 (三重より質問) 田畑政治氏より日本游泳聯盟が書類を以て各方面に運動して居るのに對し、その寫し及該聯盟と本聯盟との間に嘗て競技上の事に關し取極めたる契約書の寫しを示して此問題の經過を説明し、殊に最近は競技方面へ進出し來れる事は此契約を無視せるものであるとなし、今後本聯盟としては斷然日本游泳聯盟を不承認とし、其の競技會に参加するものは本聯

してアマター資格を停止する事に一決した。

I 競技會統制に關する案 (田畑説明)

a 大學専門學校に關しては、特殊専門の科目の學生のみ集りて行ふ競技會はその上級の學校に於て統制するを可とし、一般的に集る競技會は (例へば高專大會の如き) 學生聯盟に於て統轄するを妥當と認むとの意見を學生聯盟に通達して考慮を求める事となつた。

b 小學校兒童水泳に關する件 全日本少年選手權大會を本聯盟にて主催し、少年の日本記録を制定するの件 (濱名灣提出、參考書類添附) 小學校の全國統一は文部省の野球統制の先例もあり、恐らく全國大會開催は不可ならんも各地方に統一團體を作つて發展せしめたく、此の事業と、小學兒童記録の問題は常務理事會記録委員會及新に組織さるべき小學校委員會に一任される事となつた。

c 女子競技促進に關する件 (大阪提案) 目下の女子のみ、競技會の外理事會にて研究する事となつた

d 中等學校競技に關する改革案 (杉本氏提案) 西部中學校の如きあまりに参加者多く却つて競技の發達を阻害して居ると思ふから適當に豫選區域を縮小して多數設けては如何。右希望は専門學校に對する統制案と共に全國學生水上競技聯盟に移謀して考慮を促す事とした。

e 飛込、水球競技促進に關する件 理事會で研究
J 競技規定改正に關する件 (理事會案) FINA 規定改正に基くもの及その他の競技規定改正の件は理事會一任。〔以下2頁に續く〕

日本水上競技聯盟機關雜誌 水泳 第二十號

定價 三十錢 一年六回隔月發行

豫約申込者に限り頒布す (一年前金豫約は送料不要)

廣告料 十圓乃至三十五圓

御申込次第詳細回答

昭和八年九月二十八日納本

昭和八年十月一日發行

編輯兼發行人 鶴岡英吉

(日本水上競技聯盟代表)

印刷者 君島潔

印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

發行並所 東京市麴町區丸ビル 805
日本水上競技聯盟編輯事務所
振替貯金東京三九九一九番